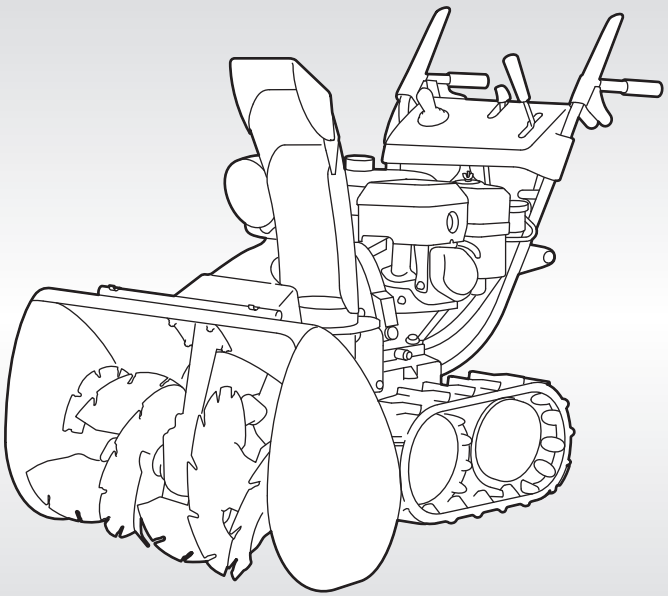
HONDA

除雪機

HSS760n
HSS760n CROSS AUGER

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

は　　じ　　め　　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書は HSS760n JX1 タイプ（クロスオーガ）を中心に編集しています。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 9

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 11
エンジンスイッチ 13
燃料コックレバー 13
始動グリップ 14
エンジン回転調節レバー 14
変速レバー 15
投雪方向調節スイッチ 15
除雪クラッチレバー 16
走行クラッチレバー 16
オーガハウジング調節レバー 17
ソリ、スクレーパー 17
雪かき棒 18
作業灯 18
HST 切換えレバー 19
燃料計 19
HST（変速機）オイルタンク 20

エンジンをかける前に点検しましょう 21
燃料の点検 21
エンジンオイルの点検・補給 23
HST（変速機）オイルの点検・補給 24
バッテリーの点検 26
オーガ／ブロアロックボルトの点検 30
その他の点検 31

エンジンのかけかた 32

運転操作のしかた 42
1. ソリ、スクレーパーの調節 43
2. オーガハウジング高さの調節 45
3. 始動 46
4. 走行クラッチレバー・除雪クラッチレバーの点検 46
5. 運転操作 48
6. 除雪のしかた 51

除雪機の止めかた 54

定期点検を行いましょう 57
定期点検整備項目 57

点検・整備のしかた 59
携帯工具と付属部品 59
エンジンオイルの交換 60
点火プラグの点検、調整、交換 62
クローラーの張り点検、調整 63
除雪部の点検 64
各部の作動点検 66
ヒューズについて 67
各部が作動しないときは 67

運搬するときは 68

長期間使用しないときの手入れ 71

故障のときは 76

主要諸元 77

配線図 78

安 全 に お 使 い い た だ く た め に

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書および除雪機に貼り付けられているラベルを事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(21 ～ 31 頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。



- カバーやラベル類､その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機を運搬するときや保管するときは、除雪クラッチレバーを操作しないで、オーガハウジングを接地させてください。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。

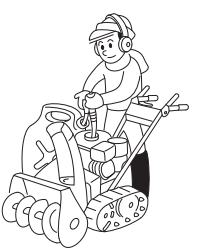


これだけはぜひ守りましょう

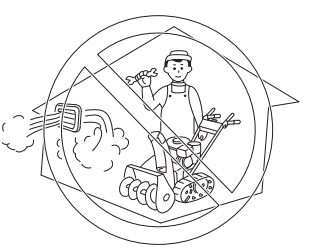
警告

作業を始める前に

- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。
- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので注意してください。
- ソリ、スクレーパーを適切に調節し、オーガが石を巻き込まないようにして作業してください。
- 投雪場所は石が飛び出しても支障がない所を選んでください。
- 石を巻き込むと、除雪機の故障の原因となるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- 定められた点検を必ず行い､不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

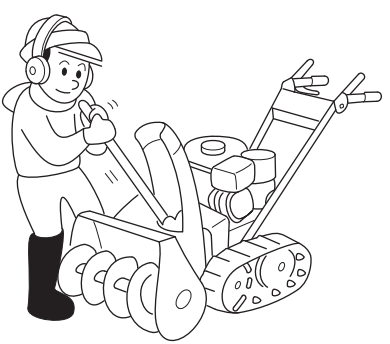


警告

作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物、自動車等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 雪の中に氷や石が混入している場合にはそれらが雪よりも遠くまで飛ぶことがあるので、余裕をもって調節してください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。



警告

作業中の注意

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず変速レバーを “N” （中立）の位置（15 頁参照）にしてから走行クラッチレバーを握り、徐々に変速レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。
  - ・滑りやすい場所では、低速で運転してください。
  - ・除雪中は、足元に注意しハンドルをしっかり握ってください。
  - ・方向転換は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。
  - ・後進時には、足元および後方の障害物に十分注意して、転倒したり障害物にはさまれないように運転してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪部に障害物が当たったり、異物が巻きついた場合は、すぐにエンジンを停止してください。
  誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いてください。
  各回転部が完全に止まってから、注意して損傷を調べてください。
  修理しないで、再始動すると思わぬ事故につながります。
- 傾斜面は横切って除雪しないでください。
- 傾斜面で方向を変える場合には、本機の動きが平地と異なることがありますので十分注意してください。
- 作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、直ちに運転を中止し、その原因を調べてください。異常な振動や音は故障による場合があります。使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。
- 除雪作業をしないで本機を移動させる場合は、除雪クラッチレバーを放してください。
- 駐車をするときは平坦な場所に駐車してください。

警告

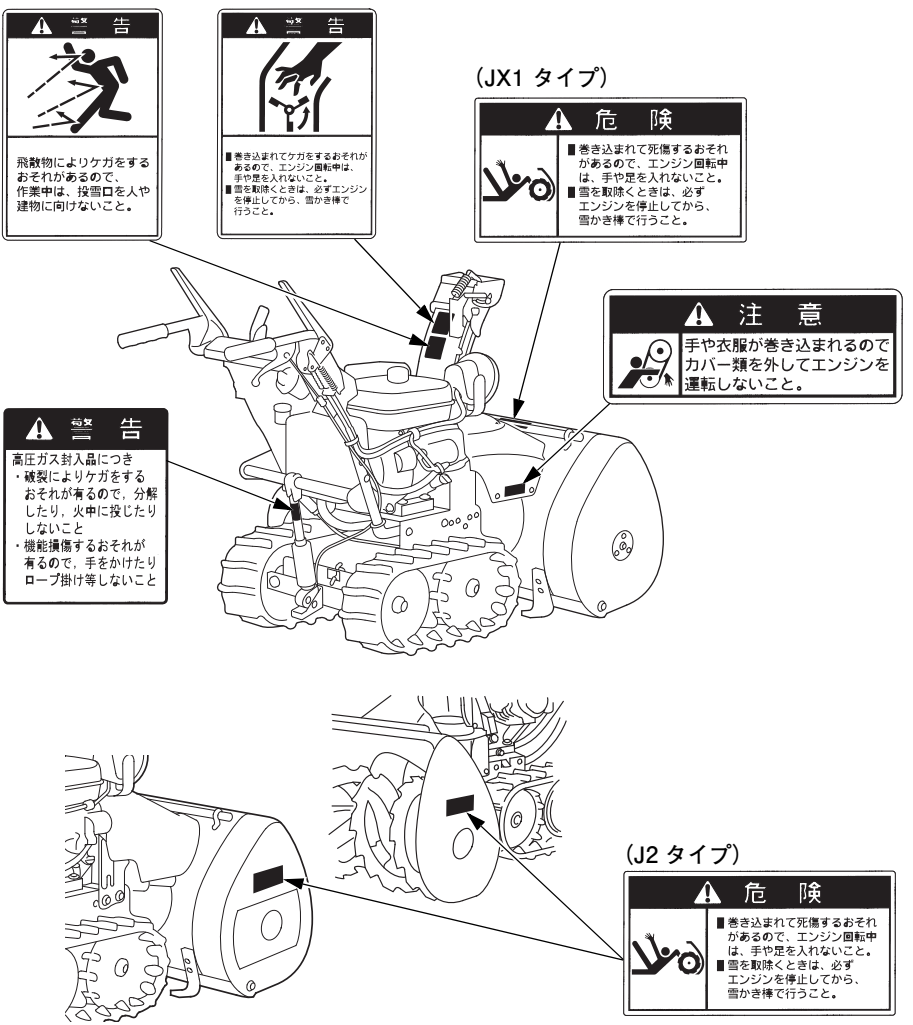
作業が終わったら

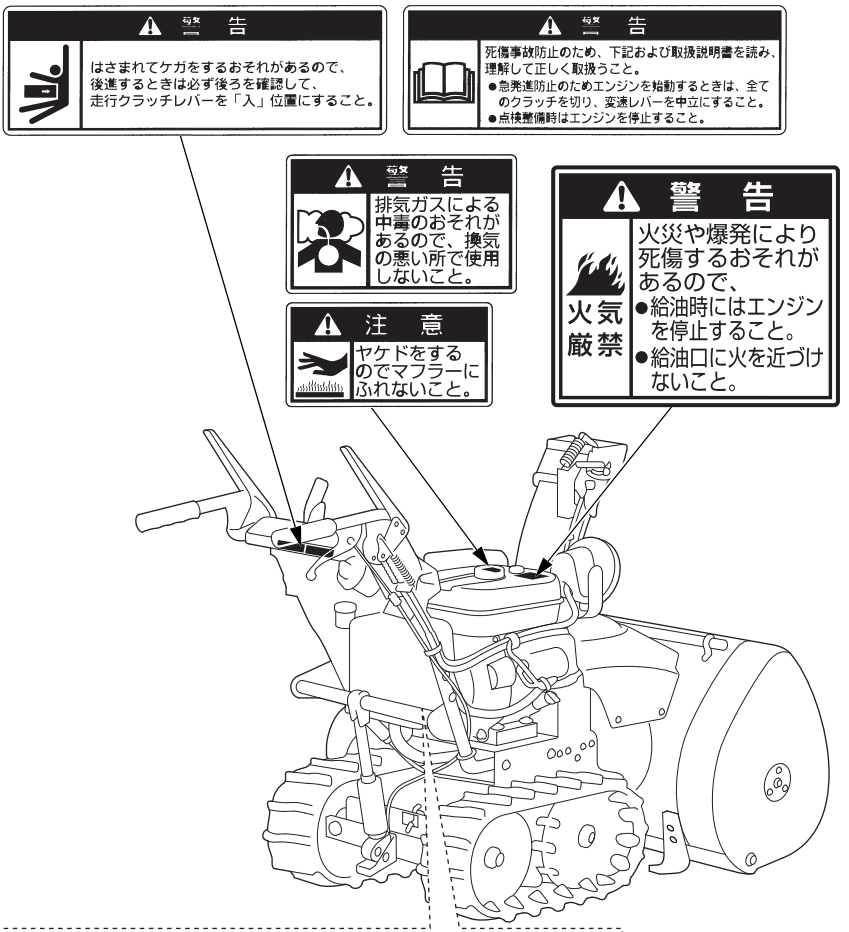
- 本機から離れるときには、オーガハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジンスイッチキーを抜いてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を屋内に格納するときやボディーカバーをかけるときは、火災の原因とならないように、エンジンが冷えてから行ってください。
- 長期保管時（30 日以上使用しないとき）には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車保管しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。
- 植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、本機の向きを決めましょう。

安全ラベル

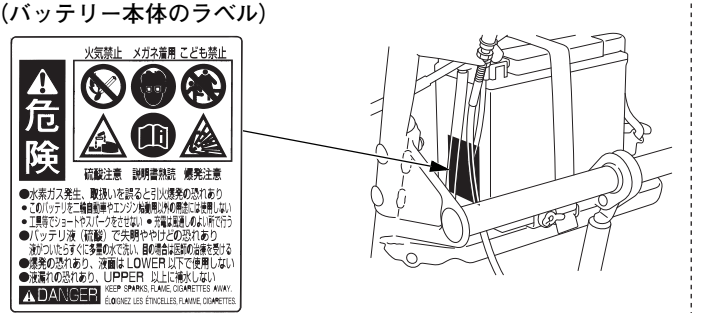
除雪機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店へお問い合わせください。

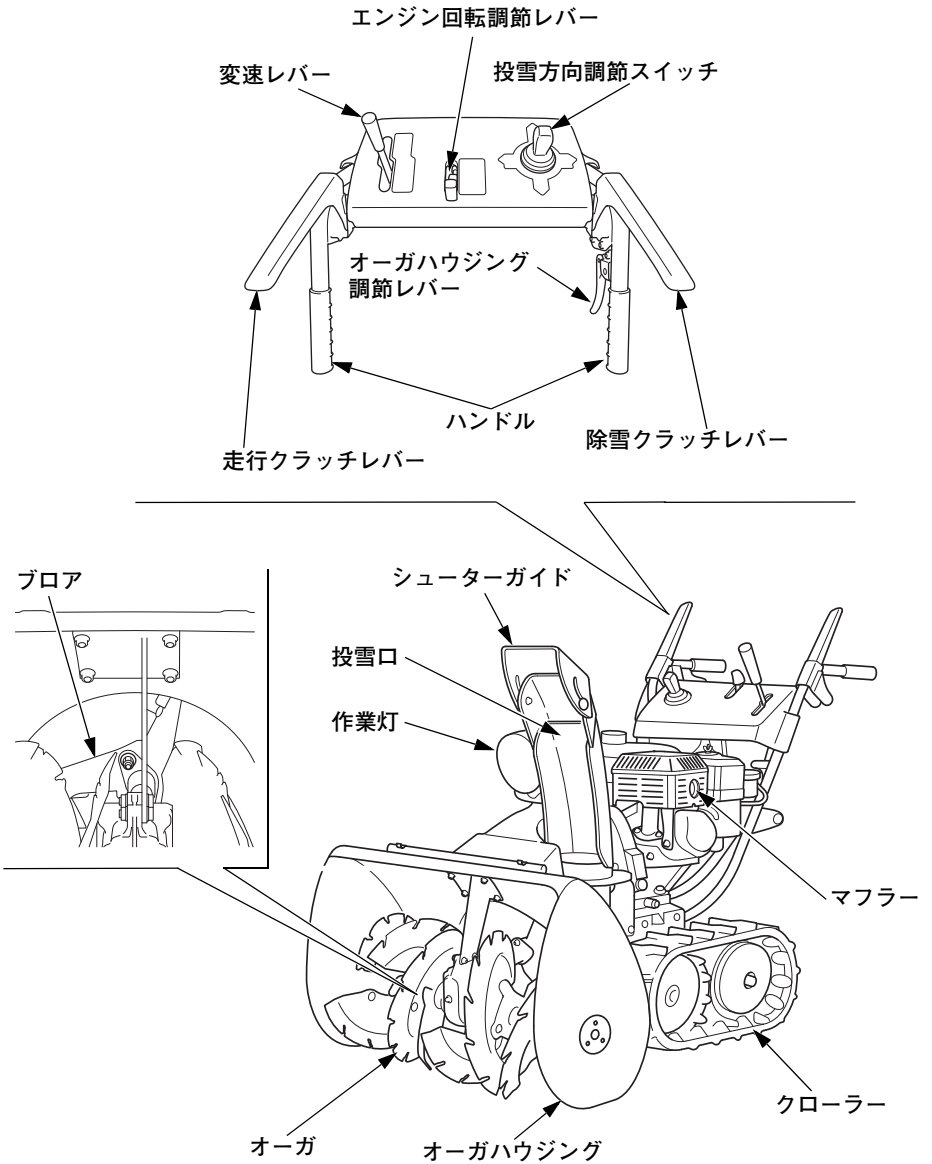


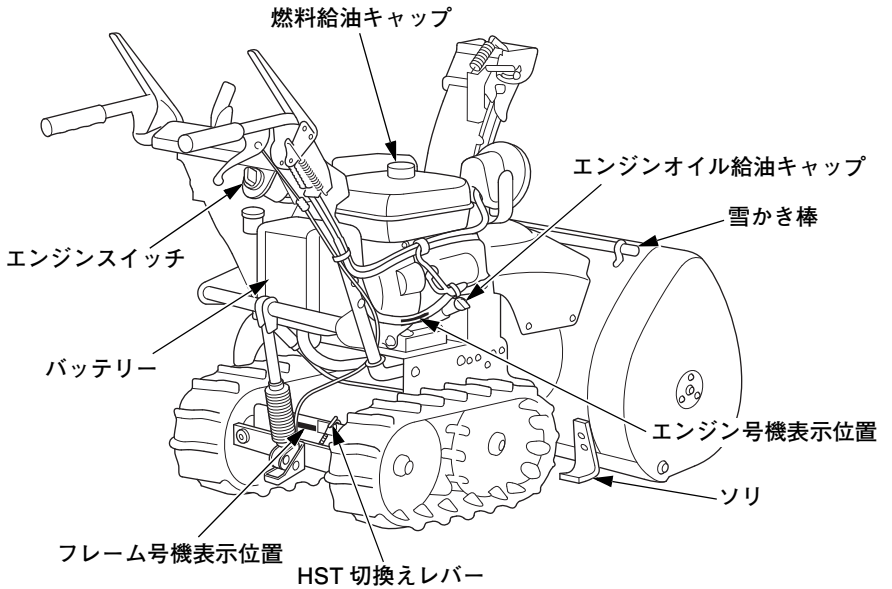


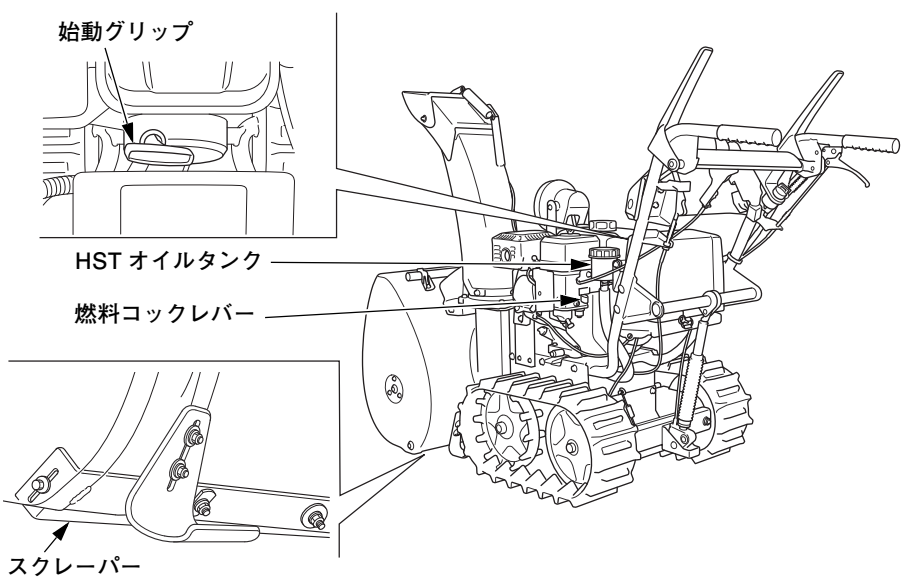
（バッテリー本体のラベル）



各部の名称と取扱いをおぼえましょう




燃料給油キャップ
エンジンオイル給油キャップ
雪かき棒
エンジンスイッチ
バッテリー
エンジン号機表示位置
ソリ
フレーム号機表示位置
HST 切換えレバー


始動グリップ
HST オイルタンク
燃料コックレバー
スクレーパー

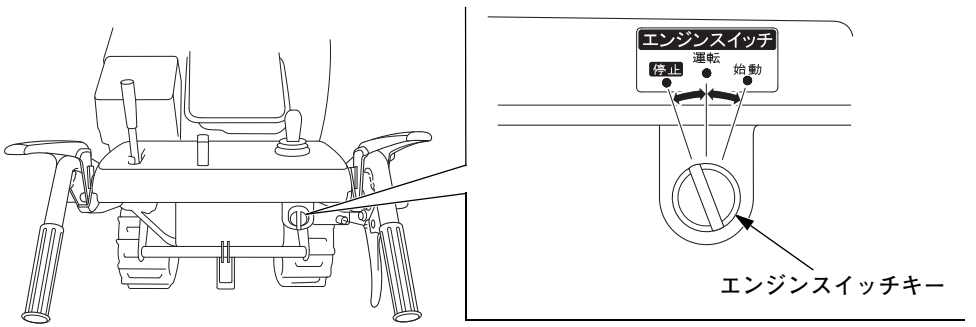
エンジンスイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

停止・・・・・ エンジンを停止する位置です。
（エンジンスイッチキーの抜取り、差込みができます。）

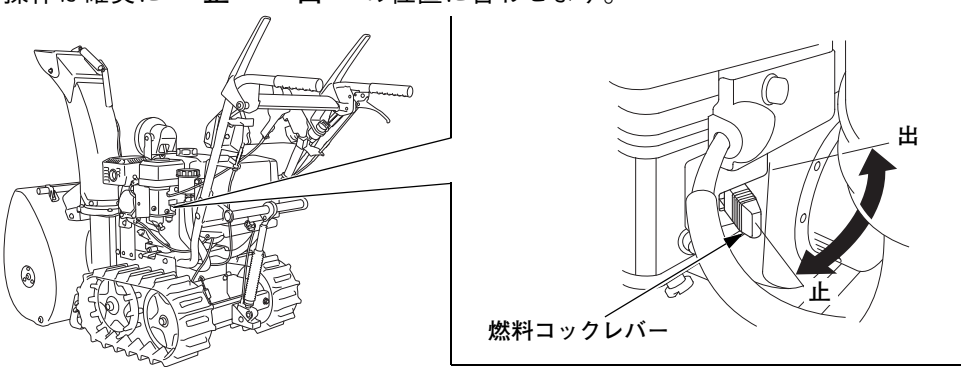
運転・・・・・ エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

始動・・・・・ エンジンを始動させる位置です。スターターモーターが回ります。
エンジンスイッチキーから手を放すと自動的に “**運転**” の位置に戻ります。



燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に “**止**” “**出**” の位置に合わせます。

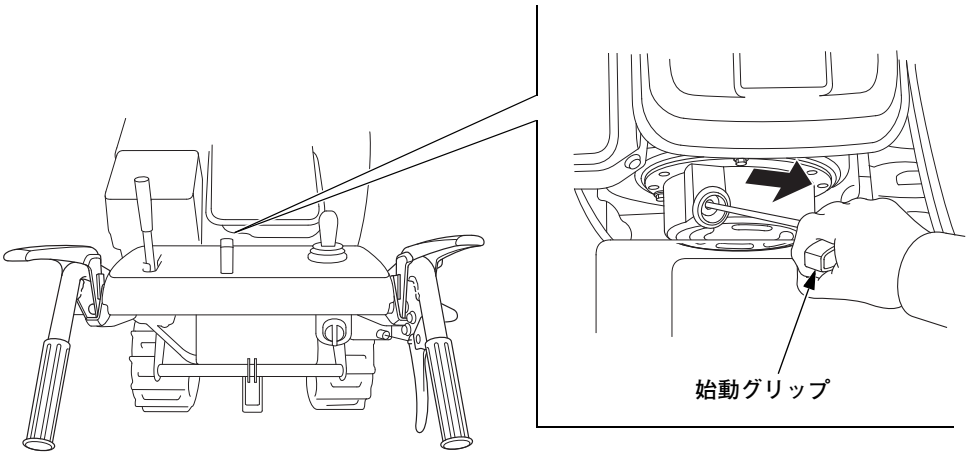


⚠警告

本機を運搬するときや、保管および点検整備時に本機が傾く可能性のある場合には､燃料漏れを防ぐためにレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

始動グリップ

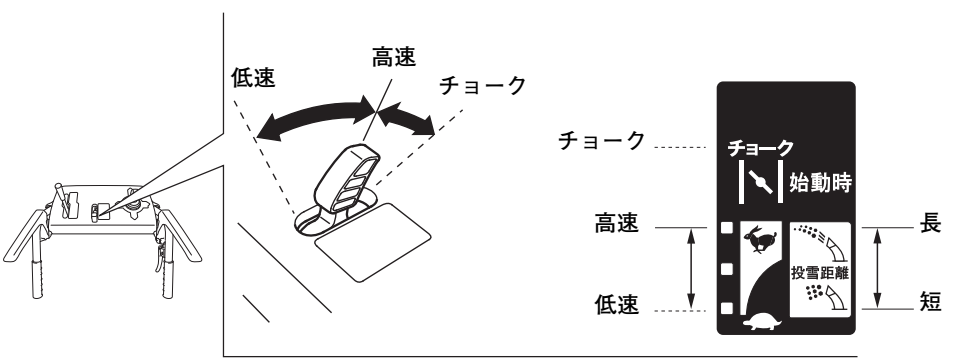
セルフスターターが使えない場合エンジンを始動するときに操作します。



エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。

- エンジン始動時、エンジンが冷えているときは、“チョーク”の位置
- エンジン始動時、エンジンが暖まっているときは、“高速”の位置

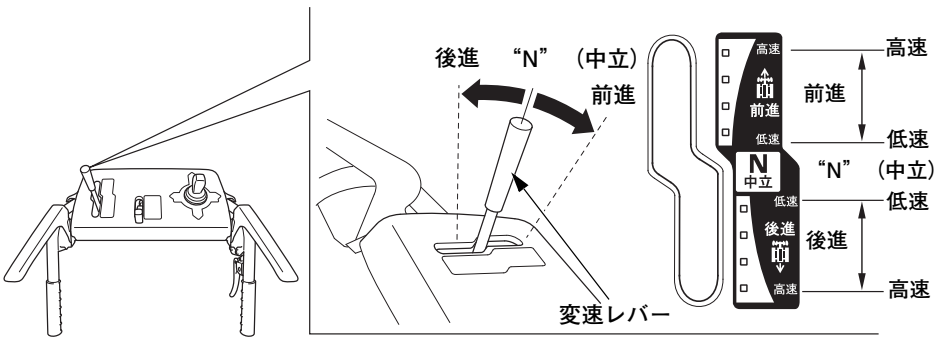


変速レバー

本機を前進、後進するときに操作します。

前進、後進が無段階に調節できます。

本機を使用しないときは “N”（中立）の位置にしてください。



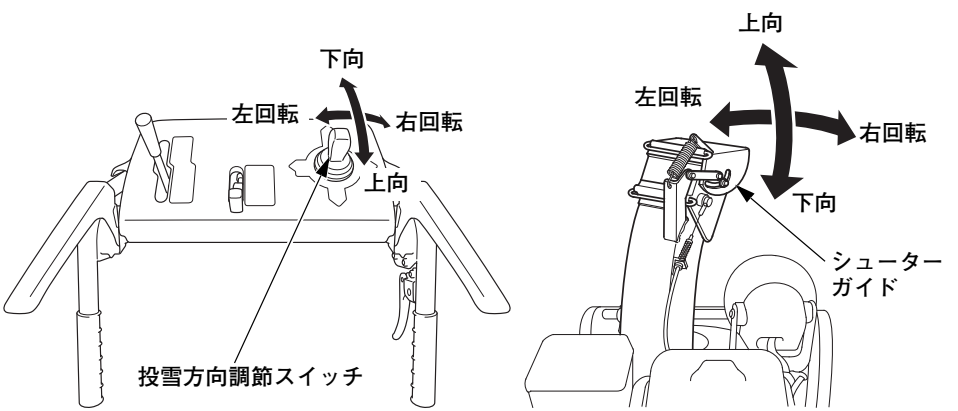
投雪方向調節スイッチ

投雪方向や距離を変えるときに操作します。

エンジンスイッチを “運転” の位置にし、スイッチを操作することによってシューターガイドを上下、左右に無段階に調節することができます。

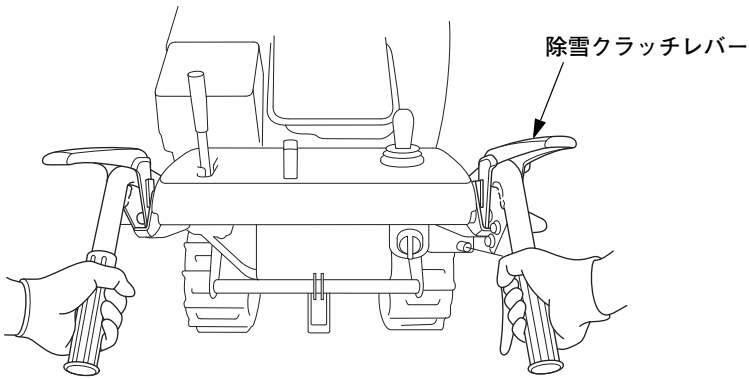
遠くに投雪したいときは上向に、近くに投雪したいときは下向に調節してください。

投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリーが消耗します。



除雪クラッチレバー

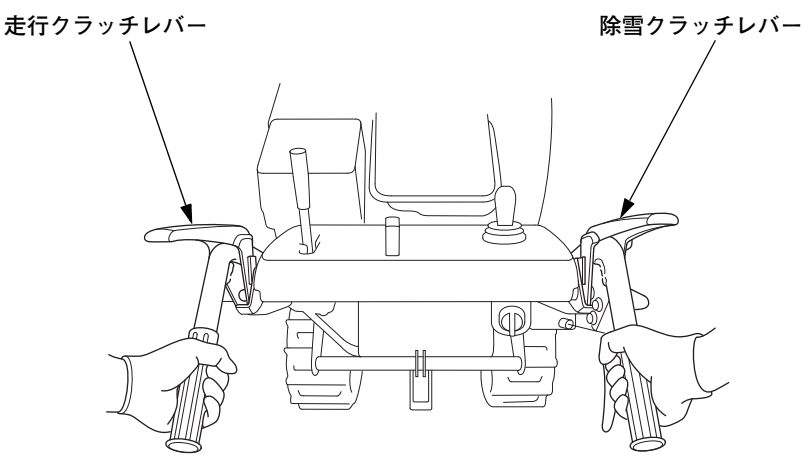
除雪クラッチレバーを握るとオーガとブロアが回転します。レバーを放せば数秒後に止まります。



走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを握ると走行し、放すと止まります。

(変速レバーが前進・後進のとき、および HST 切換えレバーが自走のとき、19 頁参照)



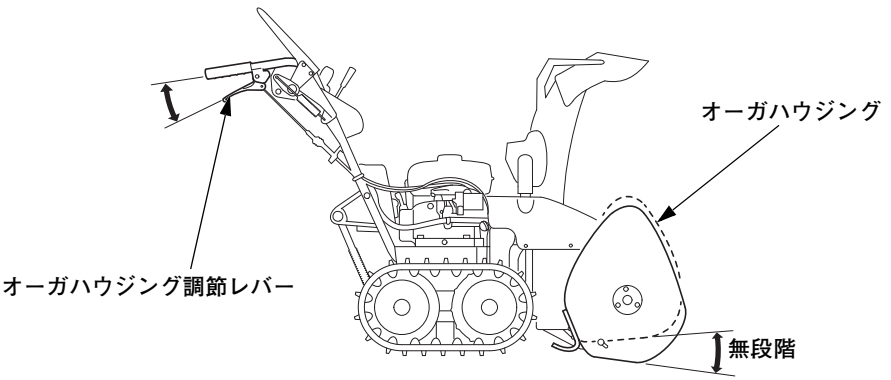
除雪クラッチレバーと走行クラッチレバーを連動して作動させることができます。(50 頁参照)

オーガハウジング調節レバー

オーガハウジングの高さを調節するときに操作します。

除雪作業に合わせて、オーガハウジングの高さを無段階に調節できます。

(45 頁参照)

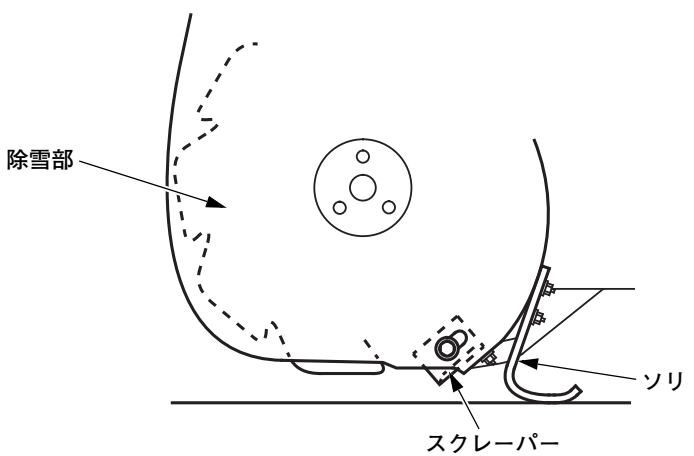


ソリ、スクレーパー

除雪する路面の状態に合わせて調節してください。

ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパーは除雪面をならします。

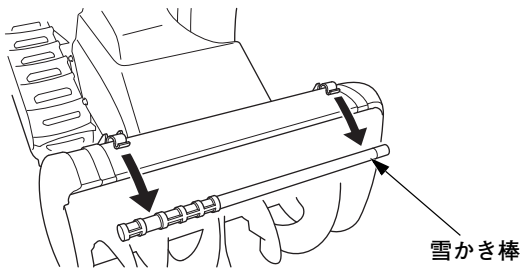
調節のしかたは、43 頁を参照してください。



雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の位置にセットしてください。

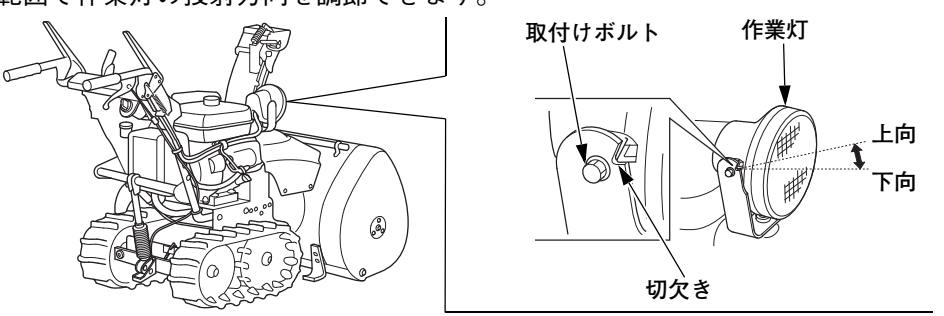


⚠警告

- **除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。**
- **エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。**

作業灯

エンジン運転中に点灯し、エンジンを停止すると消灯します。
エンジンスイッチを “**運転**” の位置にしただけでは点灯しません。
作業灯両側の取付けボルトをゆるめ、作業灯を上下に動かすことにより、切欠きの範囲で作業灯の投射方向を調節できます。



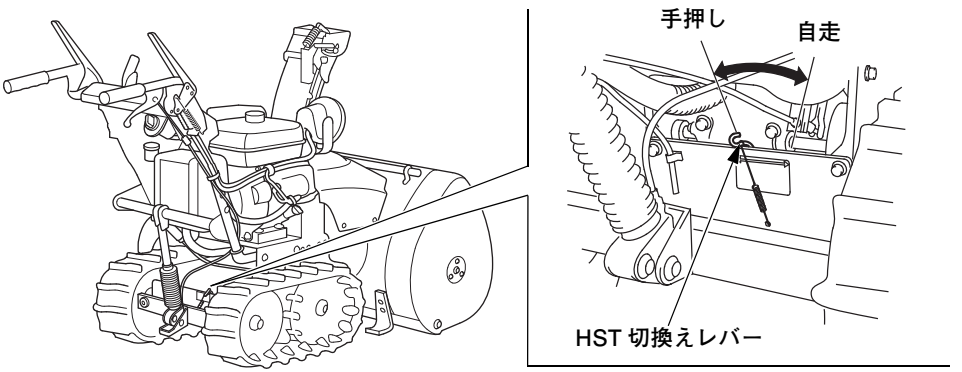
調節後は必ずボルトを確実に締付けてください。

HST 切換えレバー

作業走行時は “**自走**” の位置にしておきます。除雪機を手で押して移動する必要があるときには、“**手押し**” の位置にします。
切換えるときは
1. エンジンを止めます。
2. 変速レバーを “**N**”（**中立**）にします。
3. HST 切換えレバーを “**自走**” または “**手押し**” の位置にセットします。

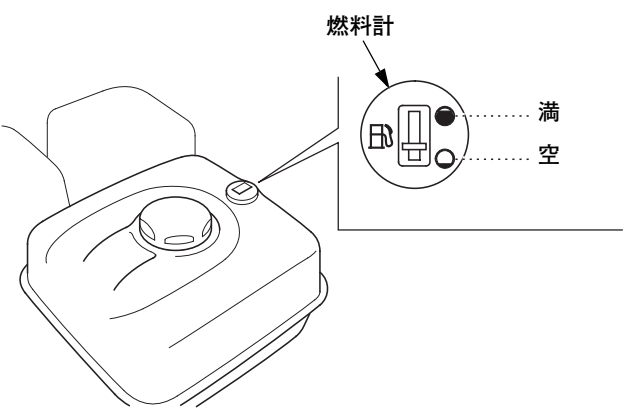
⚠警告

レバーの切換えは必ず平坦な場所で行ってください。斜面で HST 切換えレバーを操作すると除雪機が動き出してしまうことがあり危険です。



燃料計

燃料の残量を示します。
燃料計の指針が “**空**” に近づいたら早目に燃料を補給してください。

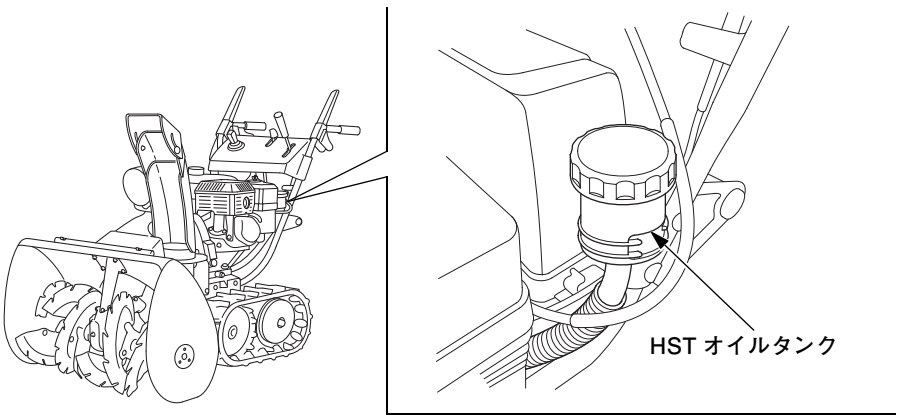


HST（変速機）オイルタンク

・HST オイルの点検は「作業前点検」を必ず行ってください。（点検は 24 頁、補給は 25 頁参照）

・HST オイルは専用オイルを使用しております。

指定オイル：**Honda 純正 H ー HST オイル**



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

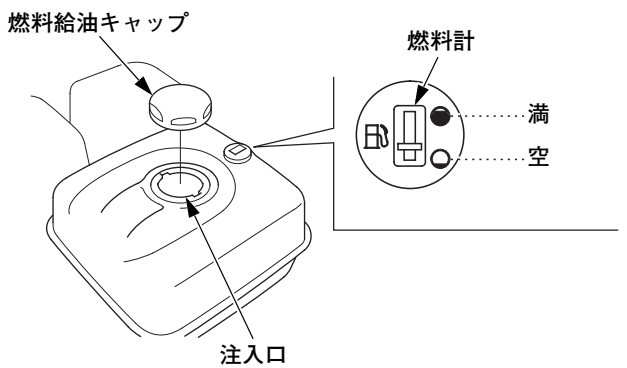
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

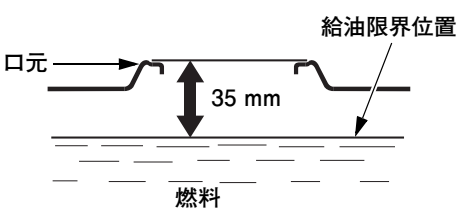
エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

点検

燃料計で燃料の量を確認します。少ない場合は補給してください。





補給

使用燃料：**無鉛レギュラーガソリン**

- 燃料給油キャップを外し、給油限界位置（口元から 35 mm）を超えないように補給します。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

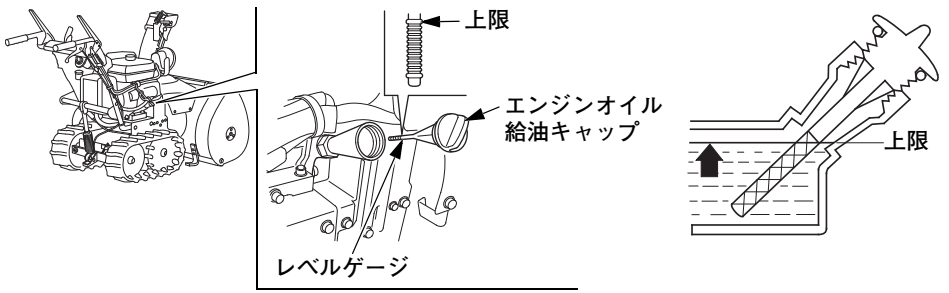
取扱いのポイント

- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検・補給

点検

エンジンを水平にして、エンジンオイル給油キャップを外します。オイル給油キャップをねじ込まず差し込んで、レベルゲージの上限までオイルがあることを確認してください。



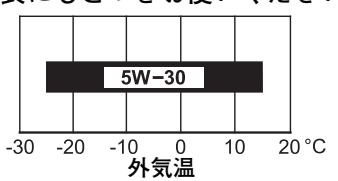
補給

推奨オイル：

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

- 少ないときには新しいオイルを上限まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換方法は 61 頁参照）

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

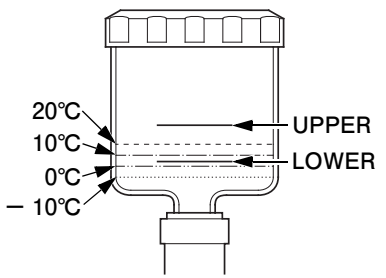
HST（変速機）オイルの点検・補給

点検

HST オイルの点検は除雪機が冷えているときに行い、HST オイルタンクのオイルレベルを確認します。

オイルレベルの確認は表に従ってください。

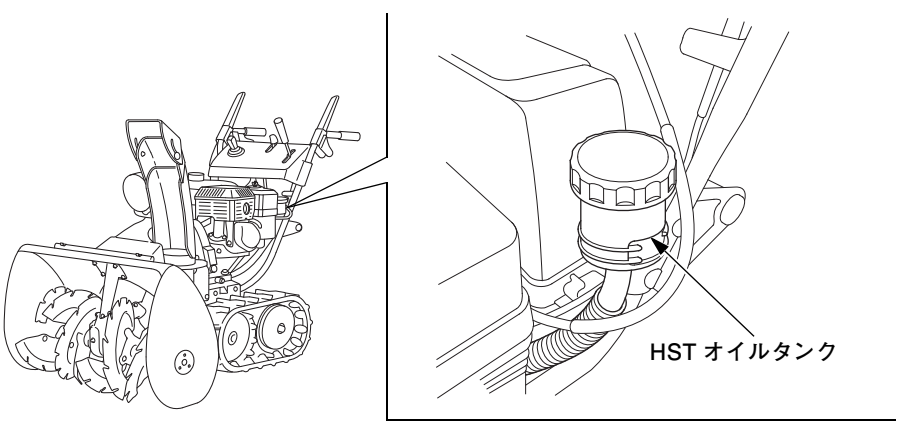
気温	オイルレベル
20°C	UPPER と LOWER の間 （LOWER より約 5 mm 上）
10°C	LOWER よりわずかに上 （LOWER より約 2 mm 上）
0°C	LOWER よりわずかに下 （LOWER より約 1 mm 下）
− 10°C	LOWER とオイルタンクの底との間 （LOWER より約 4 mm 下）



・オイルは熱の影響で膨脹したり収縮したりして容量が変化します。

外気温が低いとき（約− 20°C 以下）運転前には HST オイルタンクのオイルレベルが見えない場合があります。

除雪作業を行い HST が暖まってくると、オイルレベルが見えるようになれば異常ではありません。



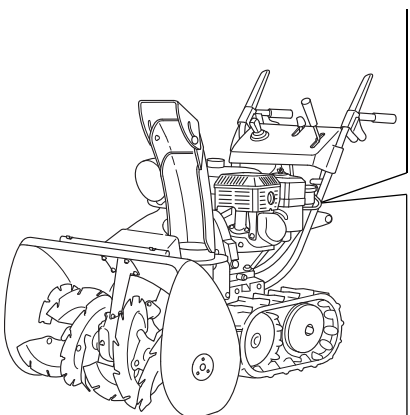
補給

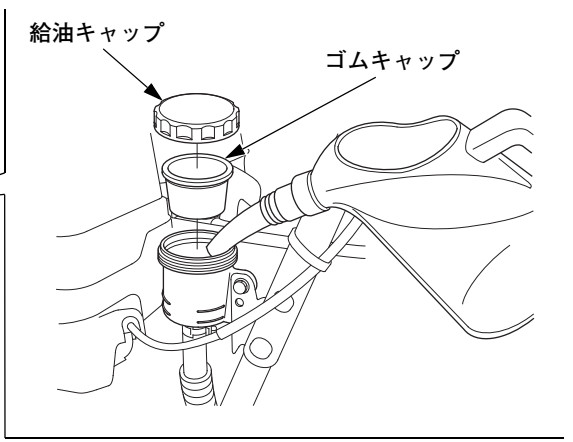
指定オイル：Honda 純正 H ー HST オイル

1. 給油キャップと内部のゴムキャップを外して、新しい HST オイルを補給します。オイル表に従って、補給してください。(24 頁参照)
2. 補給後、確実にゴムキャップと給油キャップを取付けます。

取扱いのポイント

- **補給時タンクの中に､ゴミ等の異物が入らないよう十分注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因になります。**
- **変速機オイルが著しく減少している場合は、直ちに作業を中止してお買いあげ販売店へご連絡ください。**





バッテリーの点検

⚠警告

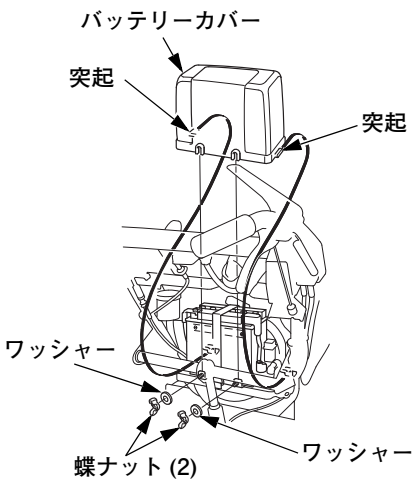
- バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
  破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 15 分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

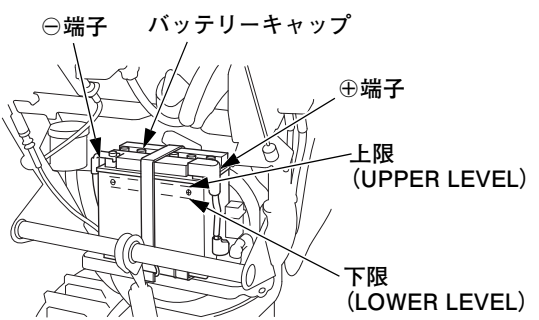
取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、⊖バッテリー端子を外しておいてください。長期間保管中は、6 か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリー補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリー液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

バッテリー液の点検

1. バッテリーカバー下部の蝶ナットとワッシャーを外し、バッテリーカバーを手前に引き取外します。
2. バッテリーの液面が各槽とも上限（UPPER LEVEL）と下限（LOWER LEVEL）の間にあることを確認してください。
   同時にバッテリーキャップの通気孔の詰まりがないことを確認してください。
   バッテリー液が下限（LOWER LEVEL）に近い場合は、バッテリー補充液（蒸留水）を補給してください。
3. バッテリーの点検が終わったら、バッテリーカバーを取付けます。
   - バッテリーカバー部の突起を図の位置に差込み、ワッシャーを取付け、蝶ナットを確実に締付けてください。



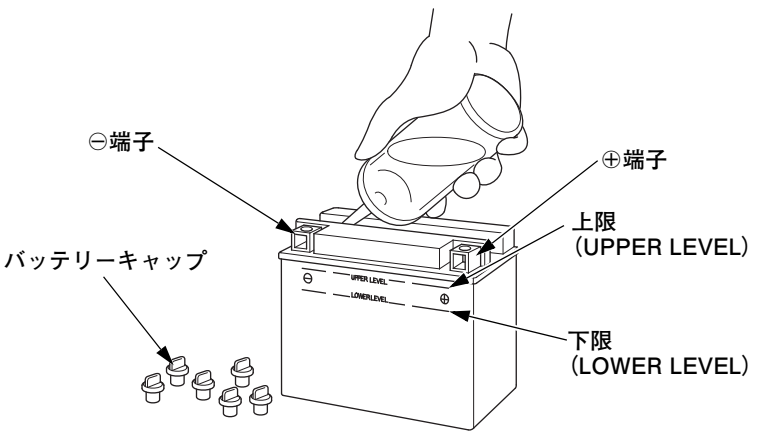


バッテリー液の補給

バッテリー液が少ないときはバッテリーを本機から取外して、バッテリーキャップを外し、バッテリー補充液（蒸留水）を上限（UPPER LEVEL）まで補給します。

バッテリーの取外し・取付けは、29 頁の手順で行ってください。

・長期保管後使用するときや、バッテリーが上がり気味のときは補充電を行ってください。（74 頁参照）

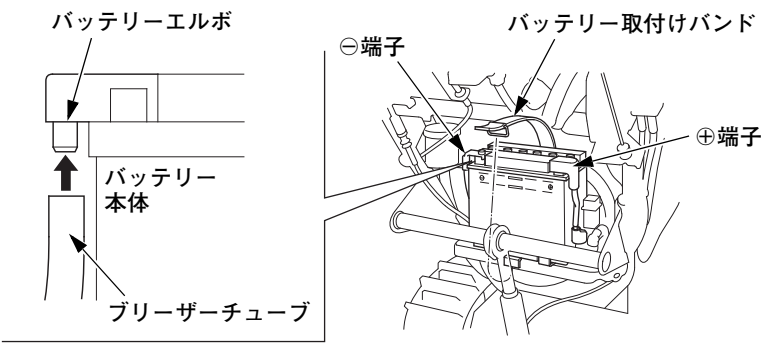


端子の手入れ

端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締付けてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリーを取外しぬるま湯で清掃し、完全に乾燥させてください。端子部が腐食している場合は、ワイヤーブラシかサンドペーパーでみがきます。清掃が終わったら、端子接続後グリースを塗布してください。

バッテリーの取外し・取付け

1. バッテリーコード㊀端子の接続を外します。
2. バッテリーコード㊉端子の接続を外します。
3. バッテリー取付けバンドとブリーザーチューブを外し、バッテリーを除雪機から取外します。
4. バッテリー補充液を補給後、バッテリーキャップを取付けます。
5. 取付けは、逆の手順で行います。
   バッテリー取付け後、ブリーザーチューブがバッテリーエルボに取付けられていることを確認してください。



取扱いのポイント

バッテリーコードの取外しは必ず上の手順で行い、取付けは逆の手順で行ってください。誤るとショートする場合があります。

オーガ／ブロアロックボルトの点検

⚠警告

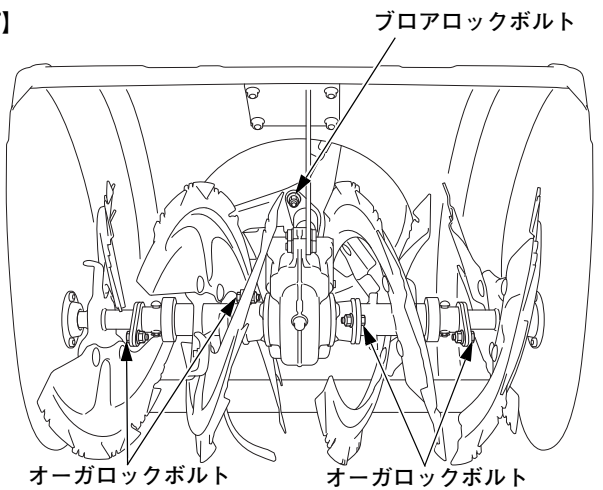
オーガ、ブロアを点検するときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いてください。

オーガ／ブロアロックボルトのゆるみ、折れがないことを確認します。

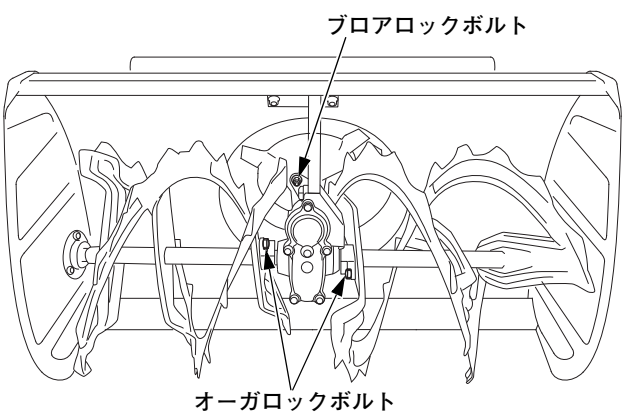
ロックボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は、64 頁の手順に従って交換してください。

【JX1 タイプ】



【J2 タイプ】



その他の点検

- 除雪部（オーガ、ブロア）および投雪口に障害物がないことを点検してください。
- ソリ、スクレーパーの点検（43 頁参照）
- 次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け …… ゆるみ、ガタがないこと
2. 各種スイッチおよび各部の作動状態 …… 正しく作動すること
3. 前回使用時の異常箇所 …… 整備されていること

その他の異常を感じたら、直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

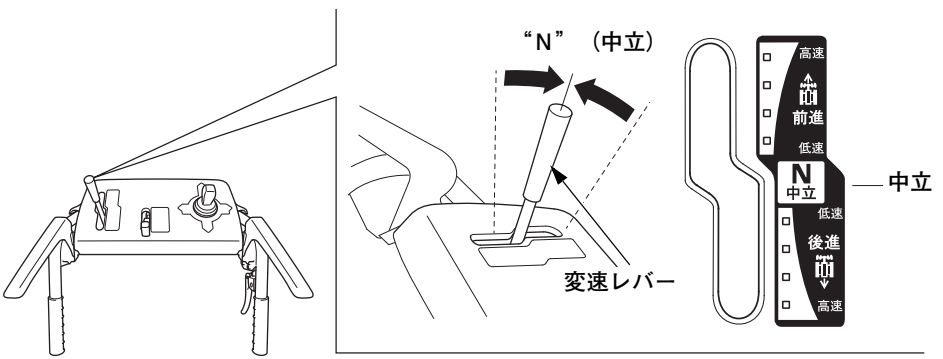
エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”（中立）の位置にすると本機が空走する場合があります。

セルフスターターを使用する場合

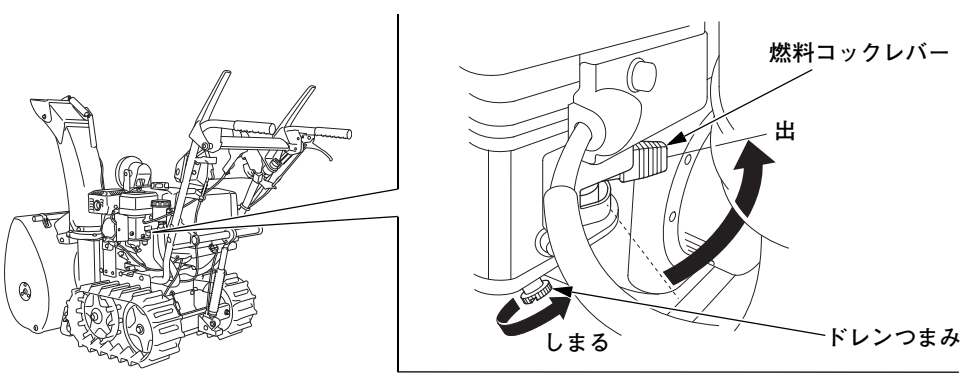
1. 変速レバーを“N”（中立）の位置にしてください。



2. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。

⚠警告

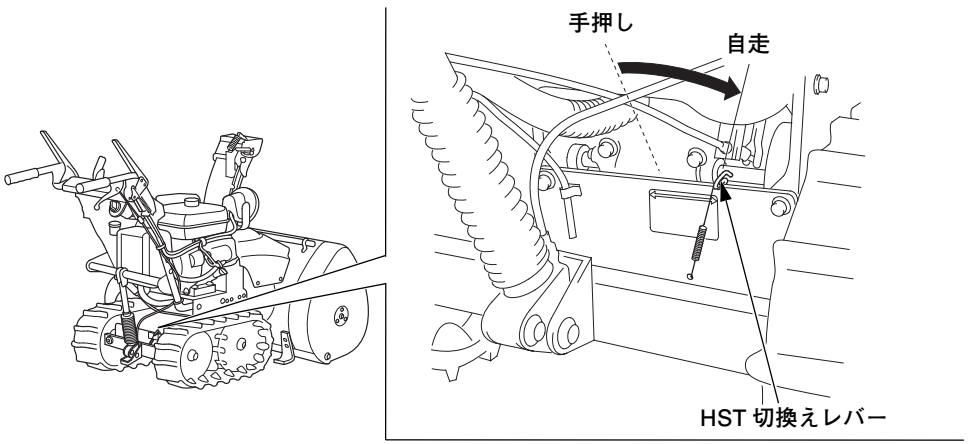
ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があり危険です。



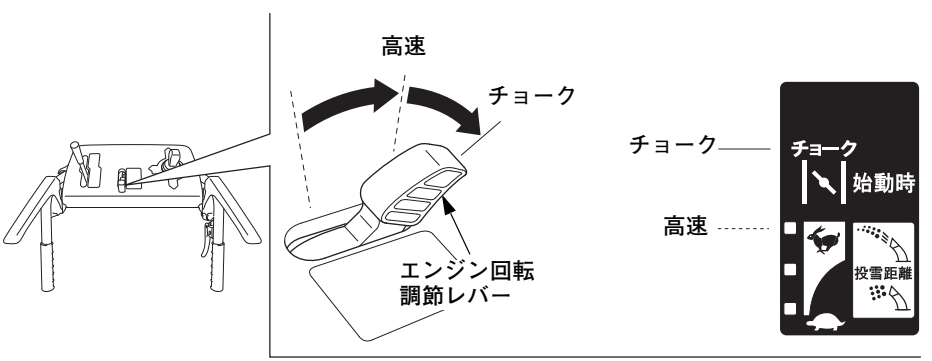
3. HST 切換えレバーを “自走” の位置にしてください。

取扱いのポイント

HST 切換えレバーを “自走” の位置にしないと走行クラッチレバーを握っても走行しません。



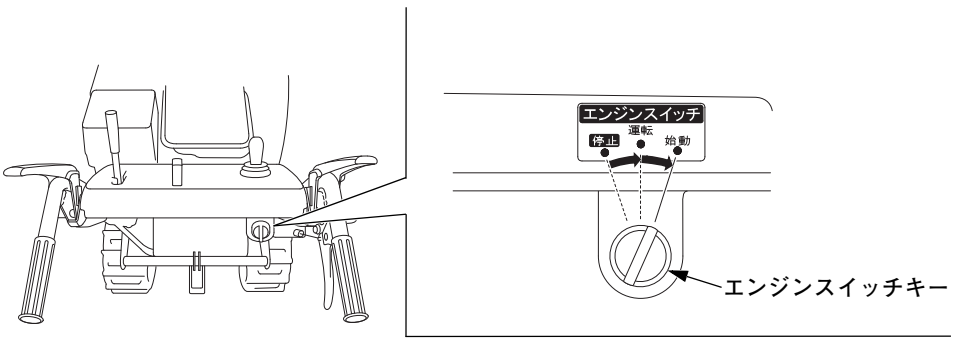
4. エンジンを始動する前に、エンジン回転調節レバーを操作します。
   - エンジンが冷えているときは、“チョーク” の位置
   - エンジンが暖まっているときは、“高速” の位置



5. エンジンスイッチを “**始動**” の位置まで回し、スターターモーターを回します。
   エンジンが始動したらエンジンスイッチキーから手を放してください。“**運転**” の位置に戻ります。

⚠注意

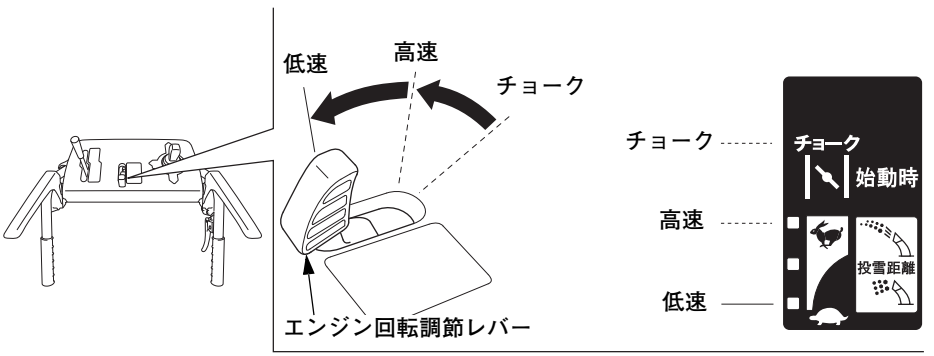
スターターモーターを回す時は、除雪クラッチレバーおよび走行クラッチレバーを絶対に操作しないでください。エンジンが始動すると同時に本機が動き出し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



取扱いのポイント

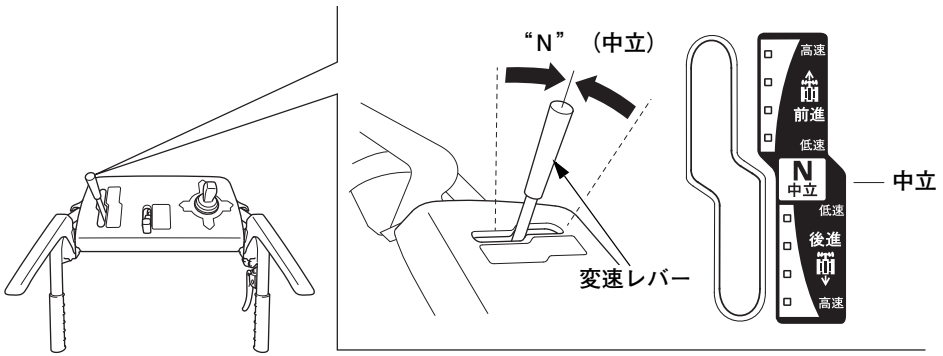
スターターモーターを回して 5 秒以内でエンジンが始動しないときは、10 秒ほど間をおいてから再始動してください。

6. 始動後エンジン回転が安定するのを確認しながら、エンジン回転調節レバーを “低速” の位置に戻し、暖機運転を行ってください。
   - “チョーク” の位置で始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら、エンジン回転調節レバーを “高速” の位置、“低速” の位置の順に戻してください。

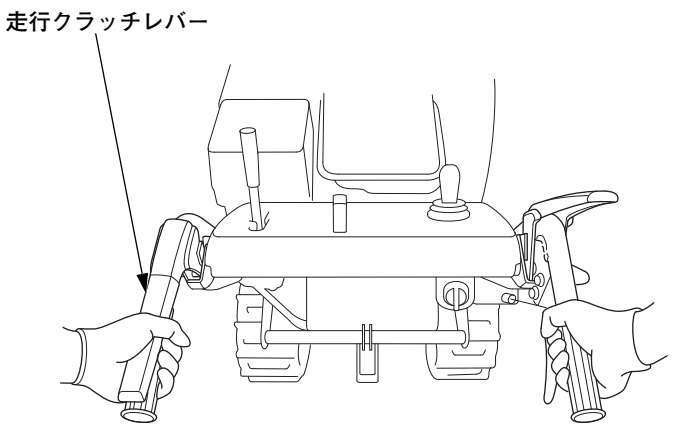


7. 暖機運転中に次の手順で HST オイルを暖めてください。

–1. 変速レバーが“N”(中立)になっていることを、もう一度確認してください。

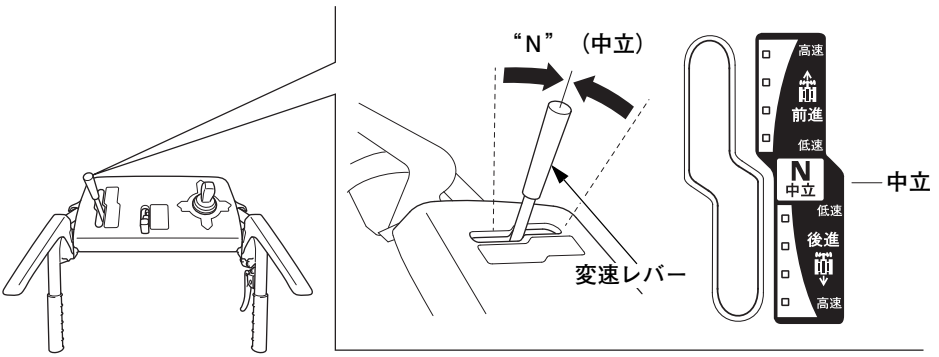


–2. 約 30 秒ほど走行クラッチレバーを握りつづけてください。



バッテリー上がり、ヒューズ切れ等によりセルフスターターが使えない場合

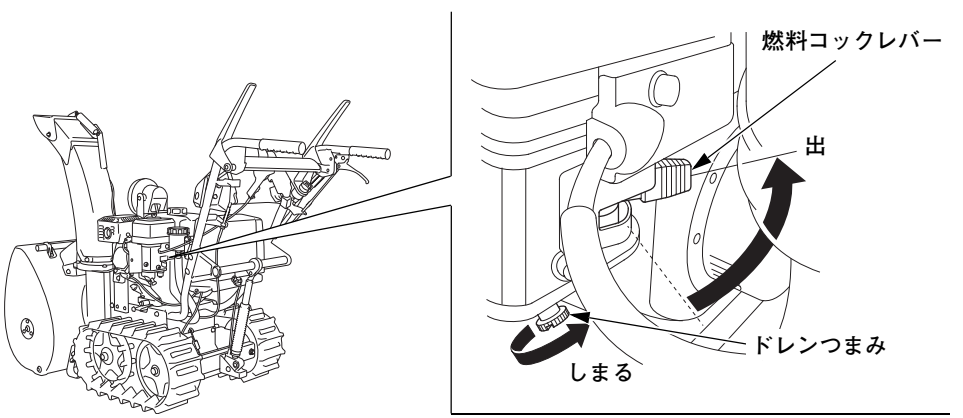
1. 変速レバーを “N”（中立）の位置にしてください。



2. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを “出” の位置に合わせます。

⚠警告

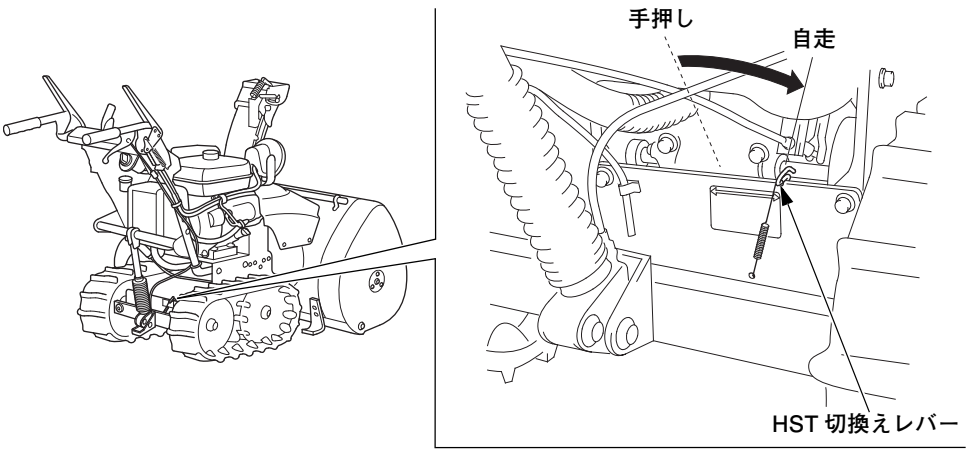
ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があり危険です。



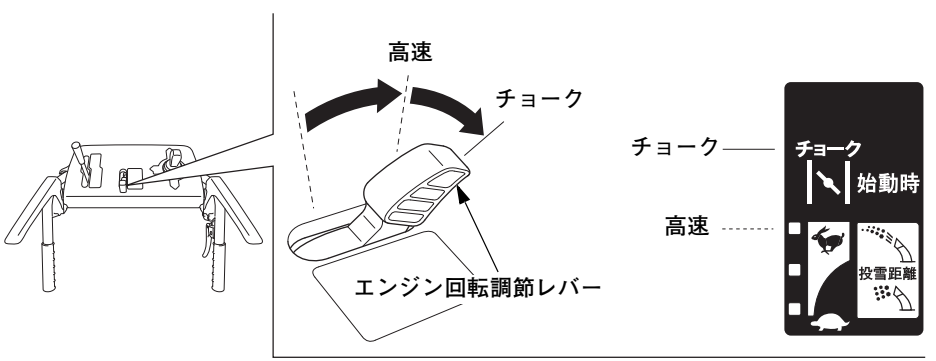
3. HST 切換えレバーを “自走” の位置にしてください。

取扱いのポイント

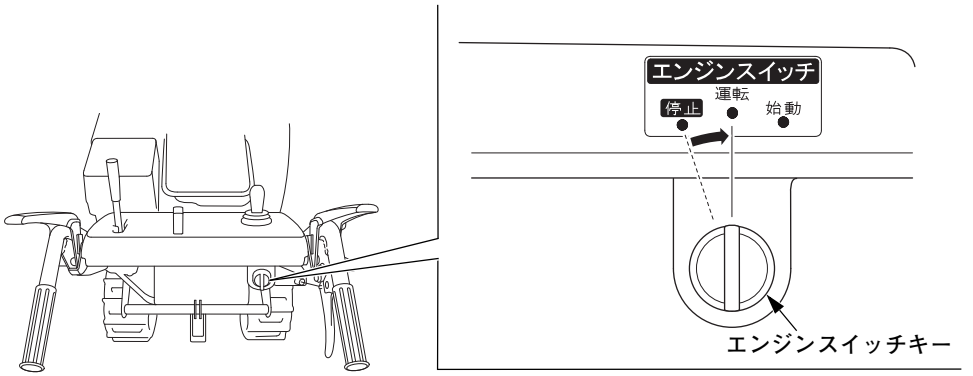
HST 切換えレバーを “自走” の位置にしないと走行クラッチレバーを握っても走行しません。



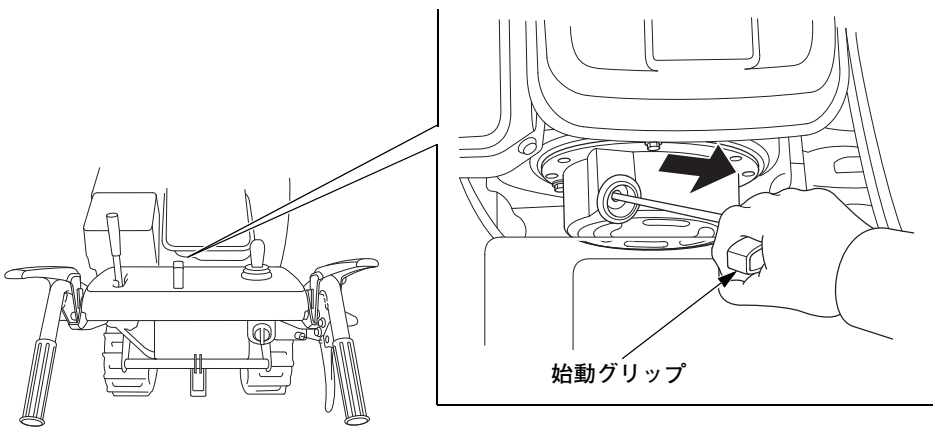
4. エンジンを始動する前に、エンジン回転調節レバーを操作します。
   - エンジンが冷えているときは、“チョーク” の位置
   - エンジンが暖まっているときは、“高速” の位置



5. エンジンスイッチを “運転” の位置に合わせます。



6. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



⚠注意

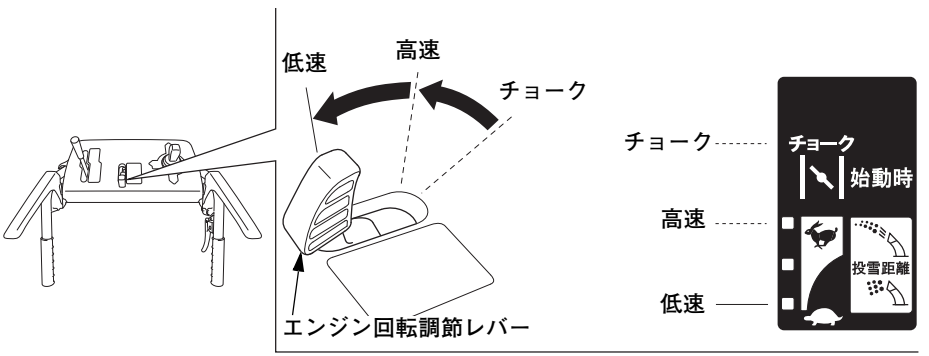
始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。始動装置を破損することがありますので静かに元の位置に戻してください。

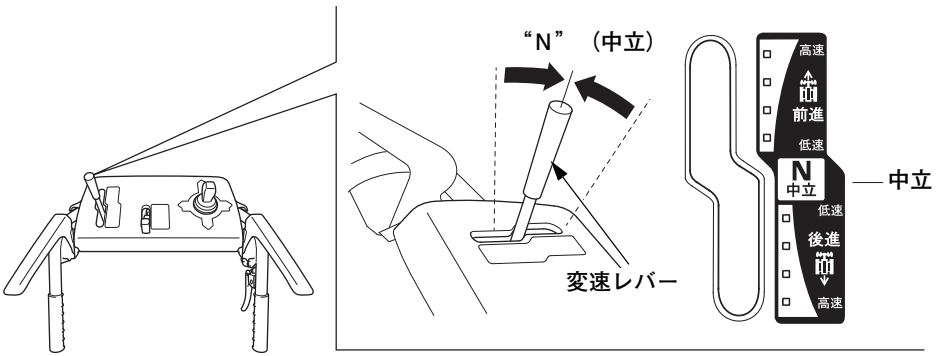
運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

7. 始動後エンジン回転が安定するのを確認しながら、エンジン回転調節レバーを“低速”の位置に戻し、暖機運転を行ってください。
   - “チョーク”の位置で始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら、エンジン回転調節レバーを“高速”の位置、“低速”の位置の順に戻してください。

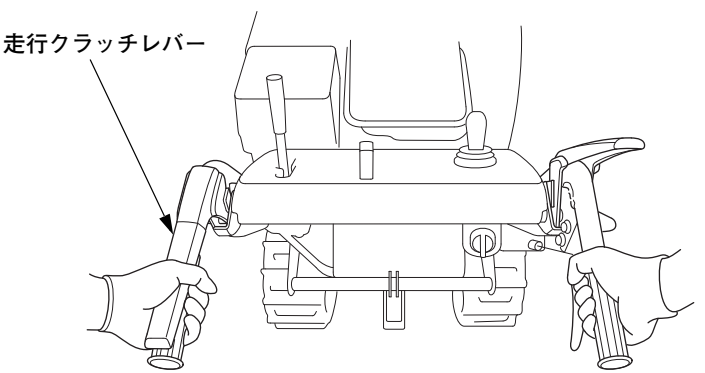


8. 暖機運転中に次の手順で HST オイルを暖めてください。

–1. 変速レバーが “N” （中立）になっていることを、もう一度確認してください。



–2. 約 30 秒ほど走行クラッチレバーを握りつづけてください。



運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- **除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。**
- **本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。**

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパー、オーガハウジング高さを調節してください。

1. ソリ、スクレーパーの調節

⚠警告

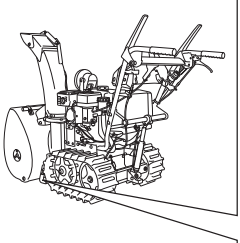
ソリ、スクレーパーを調節するときは、必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

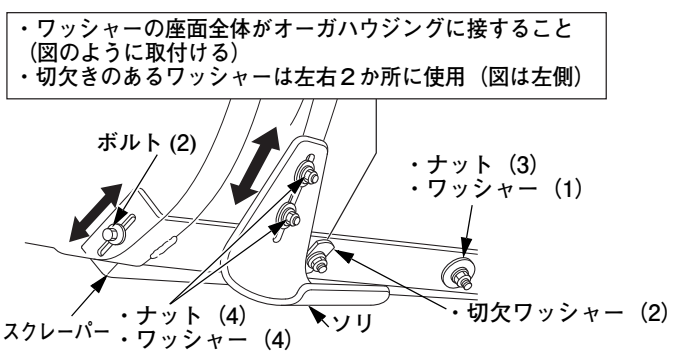
-1. 本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜き、点火プラグキャップを取外します。

-2. 除雪する路面の状態に合わせて、左右のボルトとナットをゆるめてソリとスクレーパーの高さを調整します。

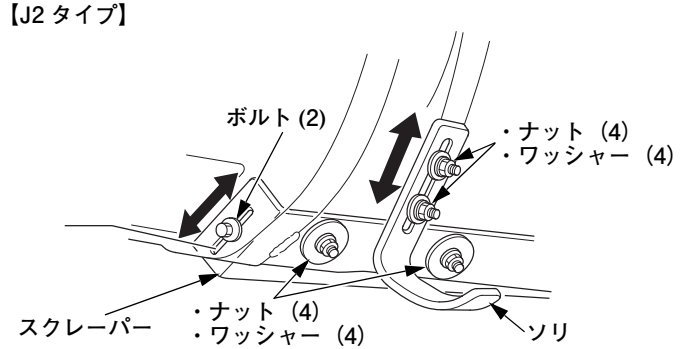
- ソリおよびスクレーパーは左右同じ高さに調節してください。
- 調節後は必ずボルト、ナットを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行わないでください。除雪部に悪影響をあたえます。



【JX1 タイプ】



【J2 タイプ】

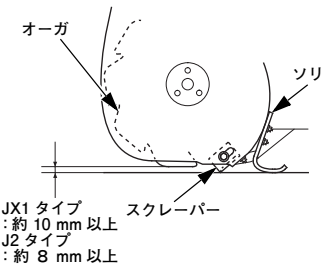


【ソリの調節はこんなときに行います】

- 回転するオーガが路面に接触して困る場合：
- 砂利などが多い路面を除雪する場合：

オーガを路面から持ち上げた状態で、ソリを固定します。

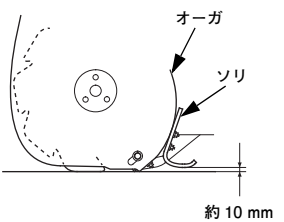
JX1 タイプ：約 10 mm 以上
J2 タイプ：約 8 mm 以上



- 屋根から落ちた固い雪などを崩したい場合：
- 締まった根雪などで、本機が食い込まず持ち上ってしまう場合：

オーガを路面に接地させた状態で、ソリを路面から約 10 mm 程度持ち上げた状態でソリを固定します。

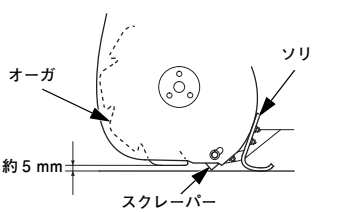
＊この場合は、路面にオーガが接触して路面を傷つけたり石飛びのおそれがありますので、注意してご使用ください。
また、一般的な条件で使用する場合は、元に戻してから使用してください。



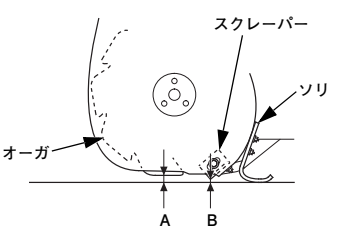
【スクレーパーの調節はこんなときに行います】

- 除雪した後に雪が残ってしまい、もっときれいに仕上げたい場合：

オーガを路面から約 5 mm 程度持ち上げた状態で、スクレーパーを路面に接地させ、スクレーパーを固定します。
ソリはスクレーパーに合わせて調整します。



標準位置（工場出荷状態）は、次のように調整されています。



	JX1 タイプ	J2 タイプ
A（オーガ）	8 − 12 mm	4 − 8 mm
B（スクレーパー）	2 − 4 mm	2 − 4 mm

2. オーガハウジング高さの調節

-1. 左右のハンドルを両手で持ち、しっかりささえます。

-2. オーガハウジング調節レバーを握り込みます。オーガハウジングの高さは、無段階に調節できます。

上げるとき ･･･ ハンドルを押し下げます。

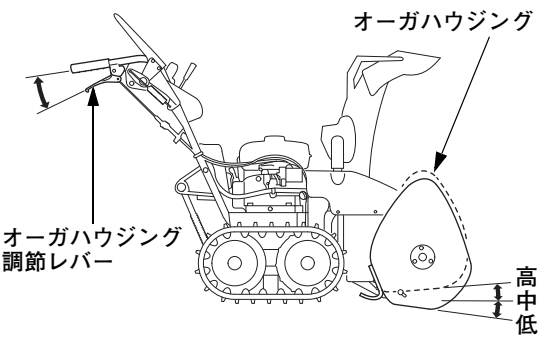
下げるとき ･･･ ハンドルを上げます。

-3. オーガハウジング調節レバーを放すと、オーガハウジングが固定されます。このとき、オーガハウジングが確実にロックされていることを確認してください。

高 : 段切除雪、後進および移動の場合に使用してください。

中 : 一般除雪（通常はこの位置で除雪してください。）

低 : 固雪除雪（固い雪で除雪部が浮き上がり気味のとき使用してください。）



⚠注意

- **オーガハウジング調節レバーを “高” の位置から操作するときは、ハンドルをしっかりささえてください。ハンドルが本機の自重により急激に戻される場合があります。**
- **“低” の位置は、固くなった雪の除雪の場合のみ使ってください。柔らかい状態の雪や不整地でこの位置で使うと路面を傷付けたり、石飛びのおそれがあり危険です。また本機が破損したり、除雪部が著しく消耗・損傷する場合があります。**

- “低” の位置にするときは、オーガハウジング調節レバーを握り込みハンドルを少し上げてから手を放すと簡単にロックができます。

3. 始動

始動については「エンジンのかけかた」32 頁～ 41 頁を参照してください。

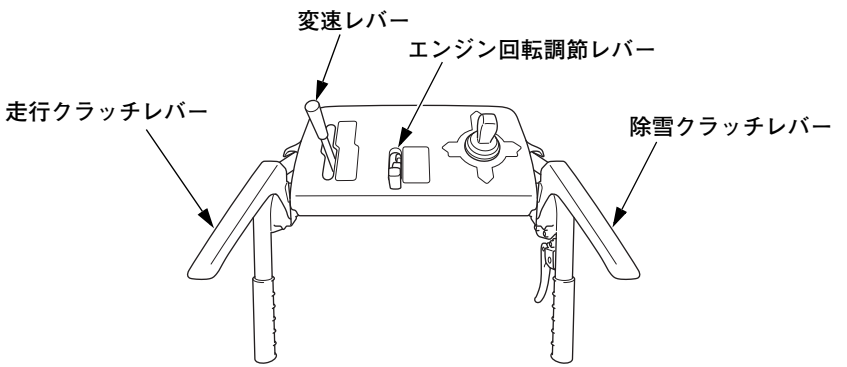
4. 走行クラッチレバー・除雪クラッチレバーの点検

走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーが正しく作動し機能することを確認します。異常がある場合は直ちにお買いあげ販売店へ連絡し、点検・整備を受けてください。

⚠警告

これらの点検はエンジンを始動し、本機やオーガを動かして確認します。

点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。また投雪口が､人や窓ガラスなどの方向に向いていないことを確認してください。



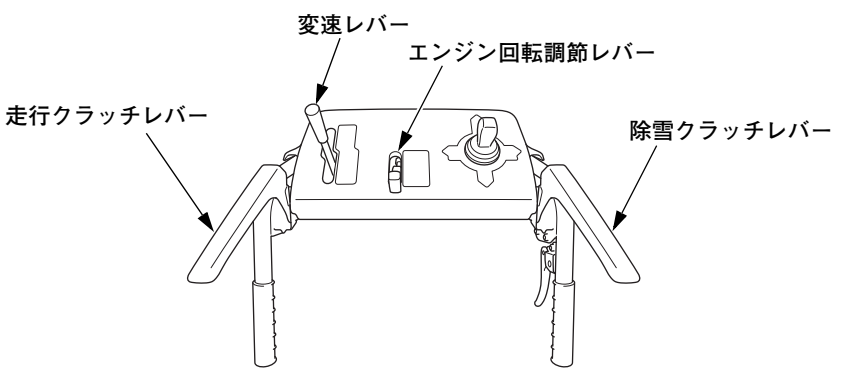
《走行クラッチレバーの点検》

1. 本機を平坦な場所に駐車し、変速レバーが “N” （中立）になっていることを確認します。
2. エンジン始動状態で、エンジン回転調節レバーを “低速” の位置にします。
3. 変速レバーを “前進　低速” の位置にします。
4. 走行クラッチレバーを握ります。
   →本機が前進すれば正常です。
5. 走行クラッチレバーを放します。
   →本機が走行停止すれば正常です。
6. 変速レバーを “N” （中立）にします。

次に、「除雪クラッチレバー」の点検を行ってください。

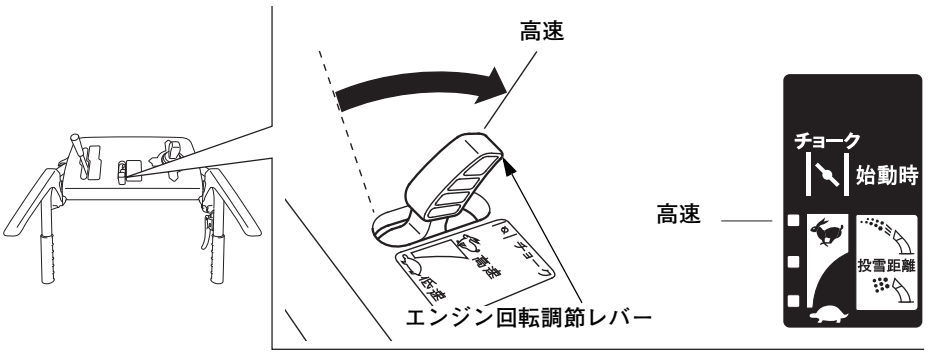
《除雪クラッチレバーの点検》

1. 変速レバーが “N” （中立）の状態で、除雪クラッチレバーを握ります。
   →オーガが回転すれば正常です。
2. 除雪クラッチレバーを放します。
   →オーガが停止すれば正常です。
3. 変速レバーを “前進 低速” の位置にします。
4. 変速レバーが “前進 低速” の状態で、除雪クラッチレバーを握ります。
5. 除雪クラッチレバーを握りながら、走行クラッチレバーを握ります。
   →オーガが回転し、本機が前進すれば正常です。
6. 走行クラッチレバーを放します。
   →オーガの回転が停止し、本機の走行が停止すれば正常です。
7. 変速レバーを “N” （中立）の位置に戻します。



5. 運転操作

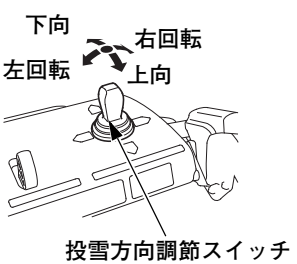
-1. エンジン回転調節レバーを “高速” の位置にします。



-2. 投雪距離と方向を調節します。

⚠注意

投雪方向や距離を変えるときには、人や建物などに注意して行ってください。

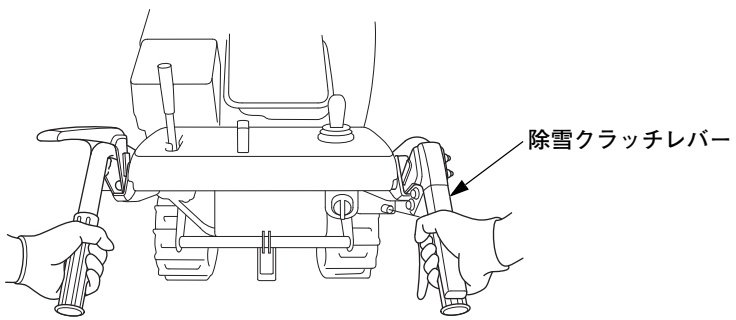




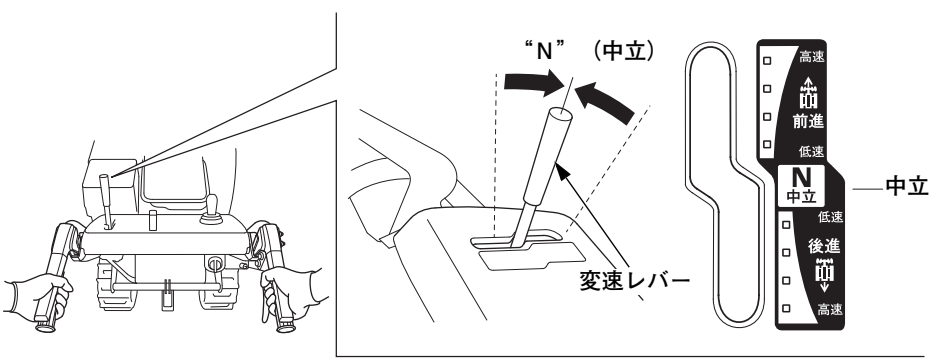
⚠注意

除雪クラッチレバーおよび走行クラッチレバーを握ると本機が作動します。
レバーを握るときには周囲の安全を十分に確認してください。

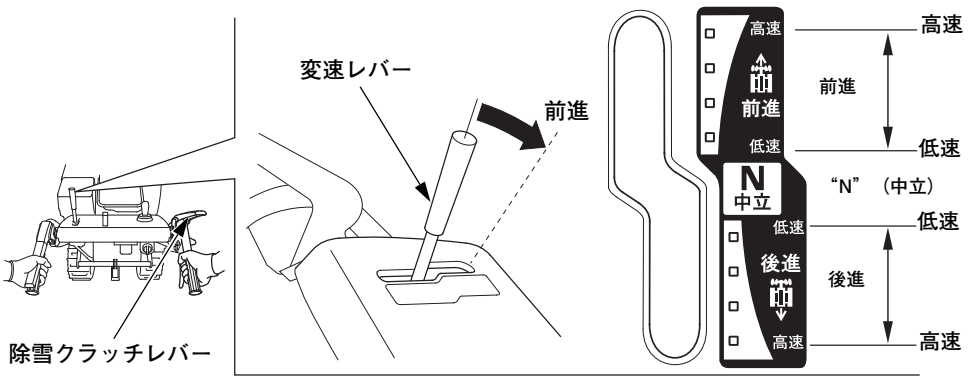
-3. 除雪クラッチレバーを握り除雪部を回転させます。



-4. 変速レバーが “N” (中立) の位置にあることを確認した後に走行クラッチレバーを握ります。

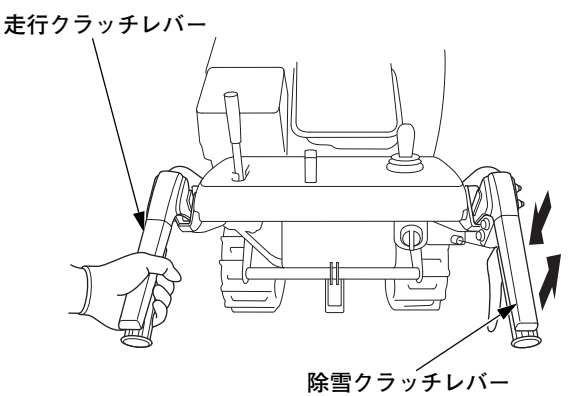


-5. 除雪クラッチレバーから手を放し、雪質、積雪量に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。



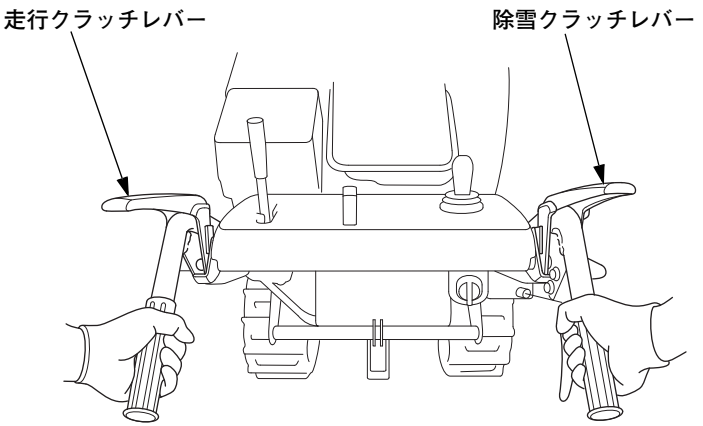
除雪クラッチレバーと走行クラッチレバーの連動手順

1. 除雪クラッチレバーを握りながら次に走行クラッチレバーを握ります。
2. 除雪クラッチレバーを放しても、除雪クラッチレバーが固定され、投雪と走行が同時にできます。
   この状態から走行クラッチレバーを放せば、投雪と走行が停止します。



- 除雪の時は、除雪クラッチレバーを先に操作してください。
- 移動のときは、走行クラッチレバーのみ使用してください。

-6. 投雪および走行を停止する場合は両方のクラッチレバーから手を放してください。

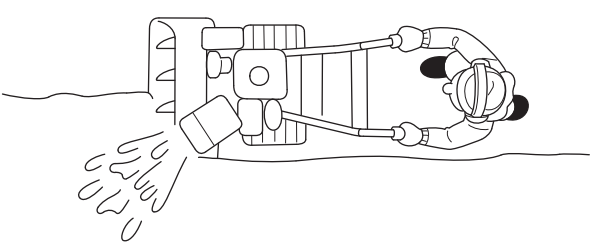


6. 除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落とさず行うことが重要です。そのためには雪による負荷をさけるため、変速レバーは “**低速**” の位置で行ってください。“**低速**” の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は、次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

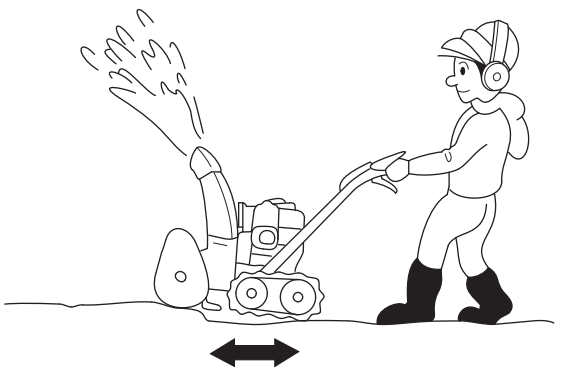
《除雪幅を狭くする方法》

深い雪や、重い雪の場合は低速で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



《前後進除雪の方法》

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



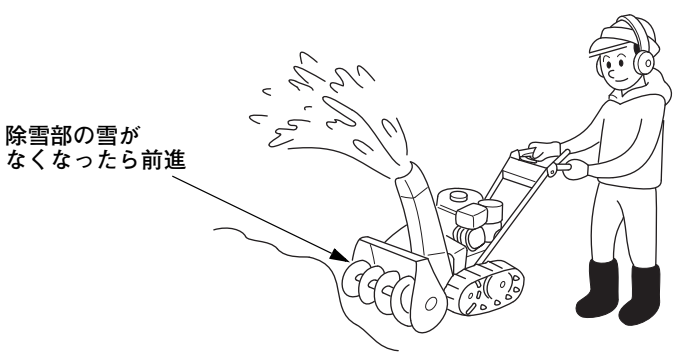
《断続除雪の方法》

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

(1) エンジン回転が回復するまで走行クラッチレバーから手を放します。
（この時除雪クラッチレバーは握ったままにしておきます。）

(2) 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら走行クラッチレバーを握ります。（車速は低速にしておきます。）

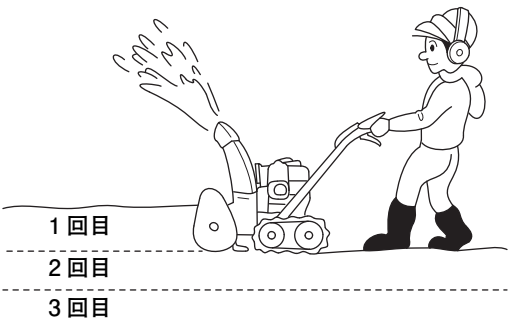
(3) 再びエンジン回転が低下する場合には、（1）～（2）を繰り返して行います。



《段切除雪の方法》

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合などには段階的に除雪を行ってください。

・のぼるときは、オーガハウジング調節レバーを操作し除雪部を少し上げます。



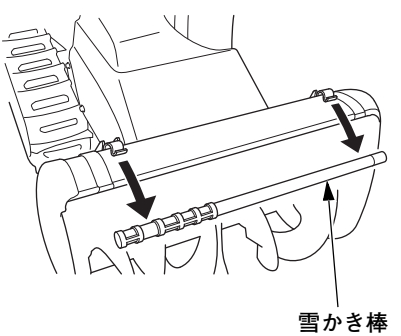
《投雪口に詰まった雪の除去》

⚠警告

- **除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。**
- **エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。**

除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。

雪かき棒は使用後、必ず元の位置に戻してください。



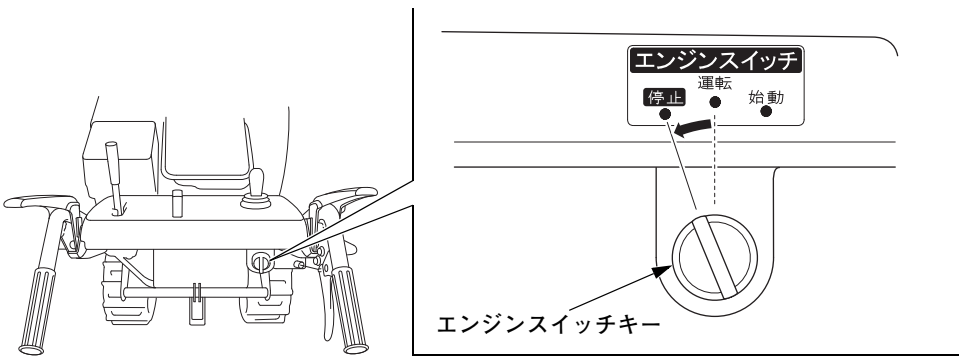
除　雪　機　の　止　め　か　た

⚠警告

平坦な場所に駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

・緊急にエンジンを停止する場合

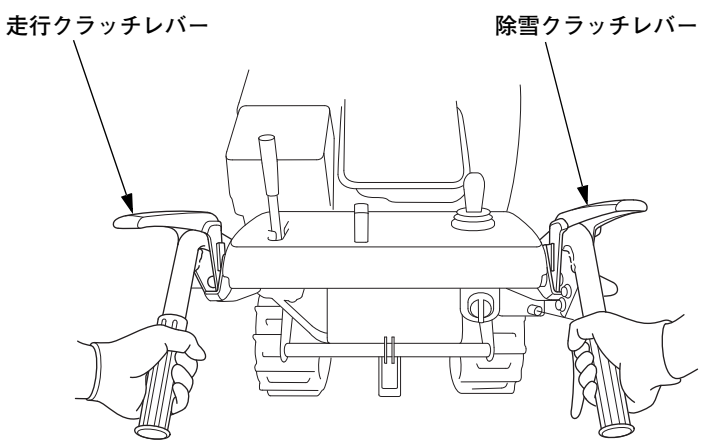
エンジンスイッチを “**停止**” の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。



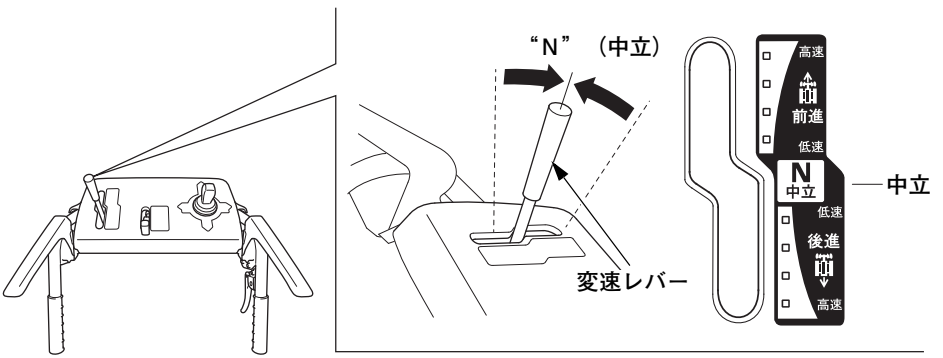
エンジンスイッチキーを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に変速レバーを “**N**”（**中立**）の位置にしてください。

・通常停止の場合

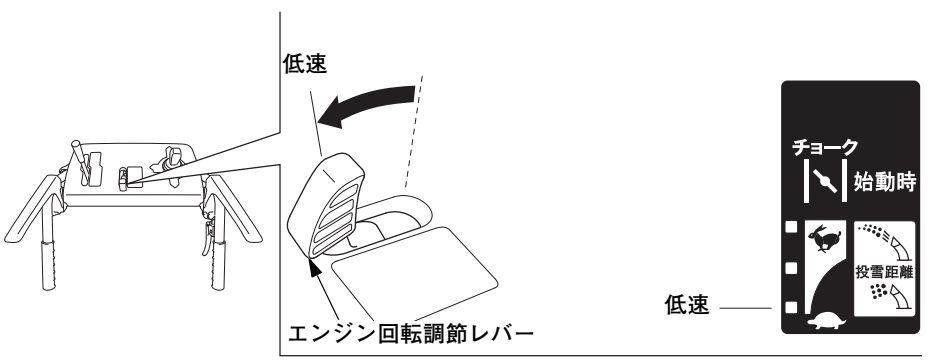
1. 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーから手を放します。
   走行が停止し、数秒後に除雪部の回転が停止します。



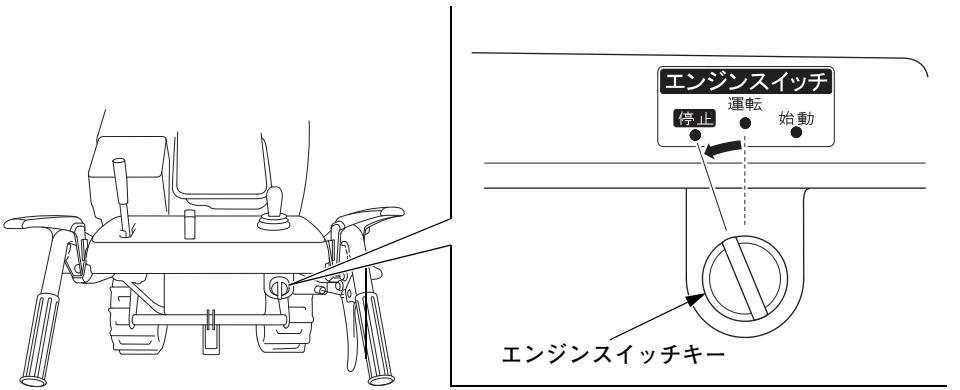
2. 変速レバーを “N”（中立）の位置にします。



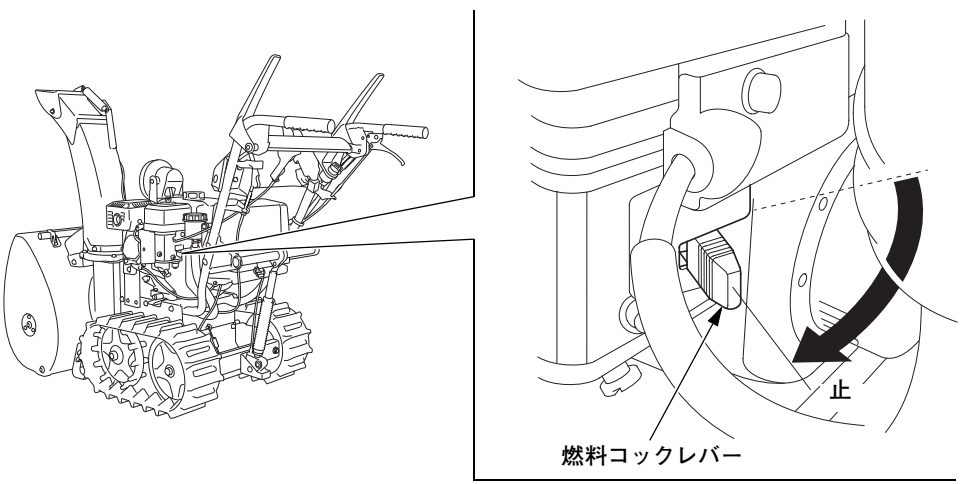
3. エンジン回転調節レバーを “低速” の位置にします。



4. エンジンスイッチを “停止” の位置にして、エンジンスイッチキーを抜きます。



5. 燃料コックレバーを “止” の位置にします。



取扱いのポイント

- 作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し､次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。
- 本機を洗車する場合は､直接電装部品に被水しないように行ってください。被水すると、浸水し故障の原因となります。

定 期 点 検 を 行 い ま し ょ う

お買いあげいただきました除雪機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検整備項目

点検時期（1） 点検項目		作業前点検	シーズン毎		1ケ月目または初回20時間運転目	100時間運転毎	300時間運転毎	4年毎	参照頁
			除雪時期初め	除雪時期終わり					
エンジンオイル	点検、補給	○							23
	交換		○(5)		○(5)	○(5)			60
HST（変速機）オイル	点検、補給	○							24, 25
オーガミッションオイル	点検、補給		○(2)						−
バッテリー液	点検、補給	○							26
	補充電		○(2) または6ケ月毎	○(2)					74
	比重点検		○(2)(5)						−
点火プラグ	点検、調整		○(5)						62
	交換						○	○	62
ソリ、スクレーパー	点検、調整	○	○(5)						43
クローラー	点検、調整		○(5)		○				63
オーガ／ブロアロックボルト	点検	○							30
各部締め付け点検	点検	○							31
燃料ろ過カップ	清掃			○					72
タンク、キャブレターの燃料	抜き			○					71, 72
除雪クラッチレバー	点検	○							47
走行クラッチレバー	点検	○							47
各種スイッチの作動	点検	○							31

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。
(5) 消耗部品であり、使用状況や環境によって点検、交換時期が変わります。異常や損傷がある場合は早めに交換してください。

点検時期（1） 点検項目		作業前点検	シーズン毎		1ケ月目または初回20時間運転目	100時間運転毎	300時間運転毎	4年毎	参照頁
			除雪時期初め	除雪時期終わり					
シューターガイド コントロールケーブル	点検、調整		○ (2)(5)						－
除雪クラッチケーブル	点検、調整		○ (2)(5)						－
走行クラッチケーブル	点検、調整		○ (2)(5)						－
スロットル、チョーク ケーブル	点検、調整		○ (2)(5)						－
オーガハウジング 調節レバー	動作点検		○ (2)(5)						－
走行ベルト	点検、調整		○ (2) (4) (5)		○ (2) (4) (5)				－
オーガベルト	点検、調整		○ (2) (4) (5)		○ (2) (4) (5)				－
格納時各部防錆、給油	塗布、給油			○					75
アイドル回転	点検、調整		○ (2)				○ (2)		－
吸入、排気弁すき間	点検、調整		○ (2)				○ (2)		－
スパークアレスター	清掃					○ (2)			－
燃焼室	清掃	1000時間運転毎 (2) (3)							－
燃料タンク、ろ過網	清掃					○ (2)		○ (2)	－
燃料チューブ	点検	2年毎 (2)							－
	交換							○ (2)	－

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。
(3) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(4) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
(5) 消耗部品であり、使用状況や環境によって点検、交換時期が変わります。異常や損傷がある場合は早めに交換してください。

点　検　・　整　備　の　し　か　た

点検・整備を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店へご相談ください。

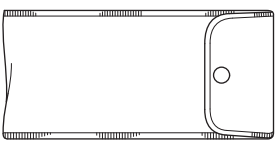
⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

携帯工具と付属部品

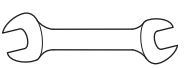
工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

（　）は、個数を表示しています。

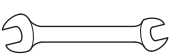


ツールバッグ

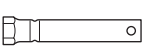
《ツール》



スパナ 12 × 14 mm



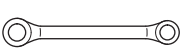
スパナ 10 × 14 mm



プラグレンチ



レンチハンドル



メガネレンチ 10 × 12 mm
(JX1 タイプのみ)

《スペア》



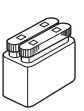
六角ボルト 6 × 18 mm（6）
(JX1 タイプのみ)



六角ボルト 6 × 16 mm (6)
(J2 タイプのみ)



セルフロックナット（6）



スペアヒューズ
・5 A
・20 A

エンジンオイルの交換

⚠警告

- **エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。エンジン高温部、マフラー等に付着すると火災の原因となります。**

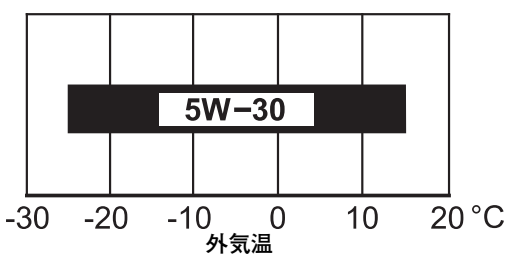
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

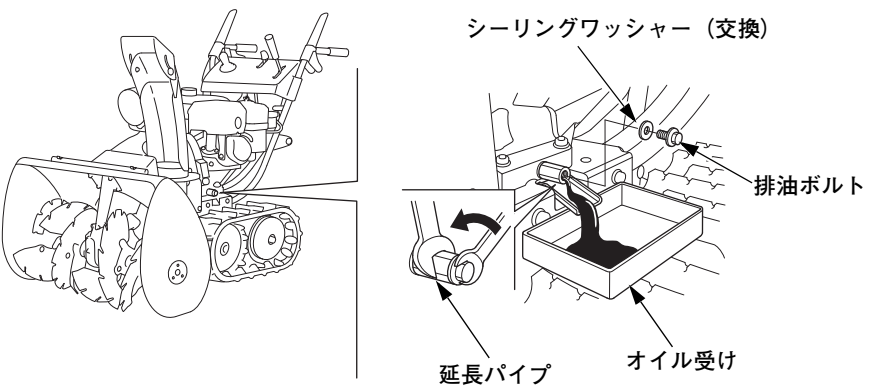
《オイル容量》0.6 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換のしかた》

1. オイル受けを用意し、排油ボルトの下にセットしてください。
2. エンジンオイル給油キャップ（23 頁参照）、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
   排油ボルトを外すときは延長パイプをスパナで固定して外してください。
3. オイルが抜けたら新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
4. 新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで注入します。（23 頁参照）
5. 注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- 外したシーリングワッシャーを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリングワッシャーを使用してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

点火プラグの点検、調整、交換

⚠注意

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃のしかた》

1. 点火プラグキャップを取外してください。
2. プラグレンチ（同梱工具）で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。プラグクリーナーがないときは､針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。

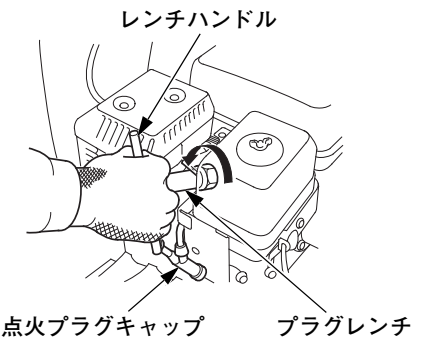
《調整のしかた》

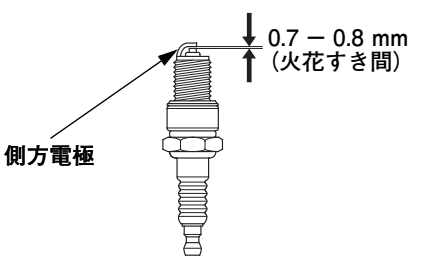
側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7 − 0.8 mm

《指定点火プラグ》

BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)





取扱いのポイント

- **故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。**
- **点検、調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

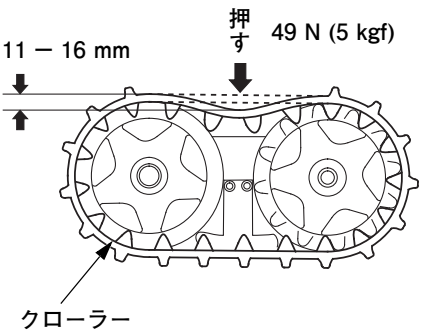
クローラーの張り点検、調整

クローラーの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検のしかた》

クローラー中央部を強く（約 49 N（5 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。

適正寸法：11 － 16 mm

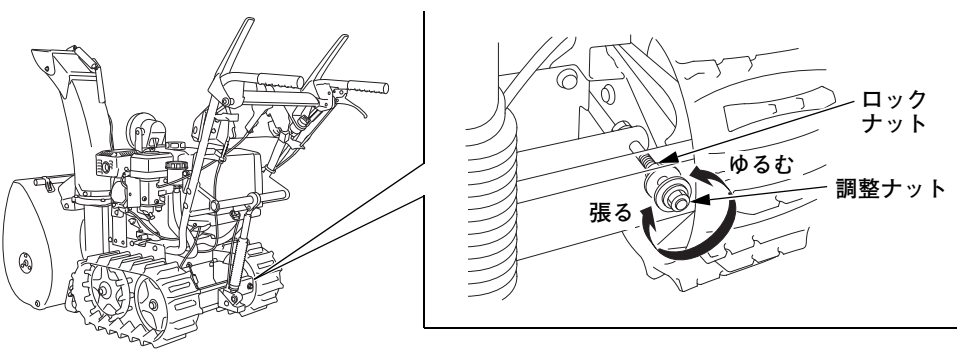


《調整のしかた》

1. ロックナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。
   ・右に回すとクローラーは張ります。
   ・左に回すとクローラーはゆるみます。
2. 適正寸法になるように調整してください。
3. 調整後、確実にロックナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

取扱いのポイント

クローラーが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
必ず凍結を取り除いてから調整してください。



除雪部の点検

オーガ、オーガ / ブロアロックボルト、オーガハウジング、ブロアに損傷のないことを確認します。
オーガ / ブロアロックボルトのゆるみ、折れがないことを確認します。
もし折れている場合は下記の手順で新しいロックボルトと交換してください。

- オーガ / ブロアロックボルト、セルフロックナットはスペア部品として同梱されています。
  使用した場合は、万一に備えて補充してください。
- 新しいロックボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

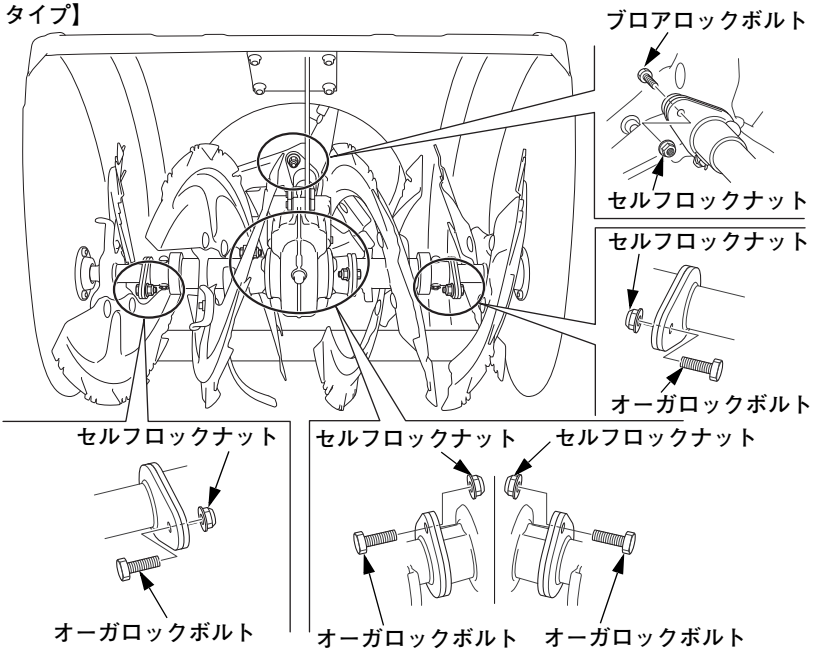
オーガ / ブロアロックボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 除雪クラッチレバーを“切”、走行クラッチレバーを“切”にしてください。
3. 変速レバーを“N”（中立）の位置にしてください。
4. エンジンスイッチキーを抜き、各回転部が停止していることを確認してください。
5. オーガ、ブロアの凍結または異物（石、棒、針金など）を取除きます。
6. 除雪部（オーガ、オーガハウジング、ブロア）に損傷がないことを確認してください。
7. 折れたロックボルトを取除き、新しいロックボルトと交換し、確実に締付けてください。

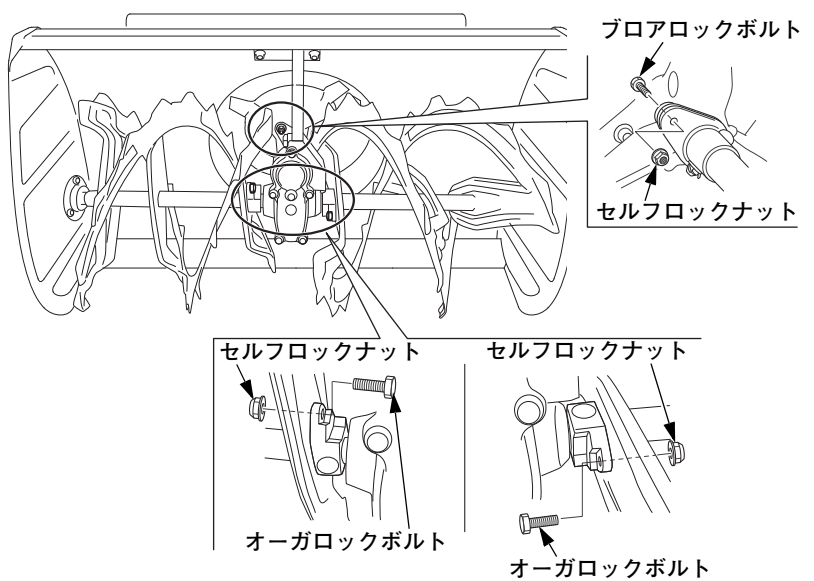
取扱いのポイント

ロックボルトは締め付け部の内側の異物を取り除き、すき間がないように確実に締付けてください。締付けがゆるいと、ロックボルトが損傷しやすくなります。

【JX1 タイプ】



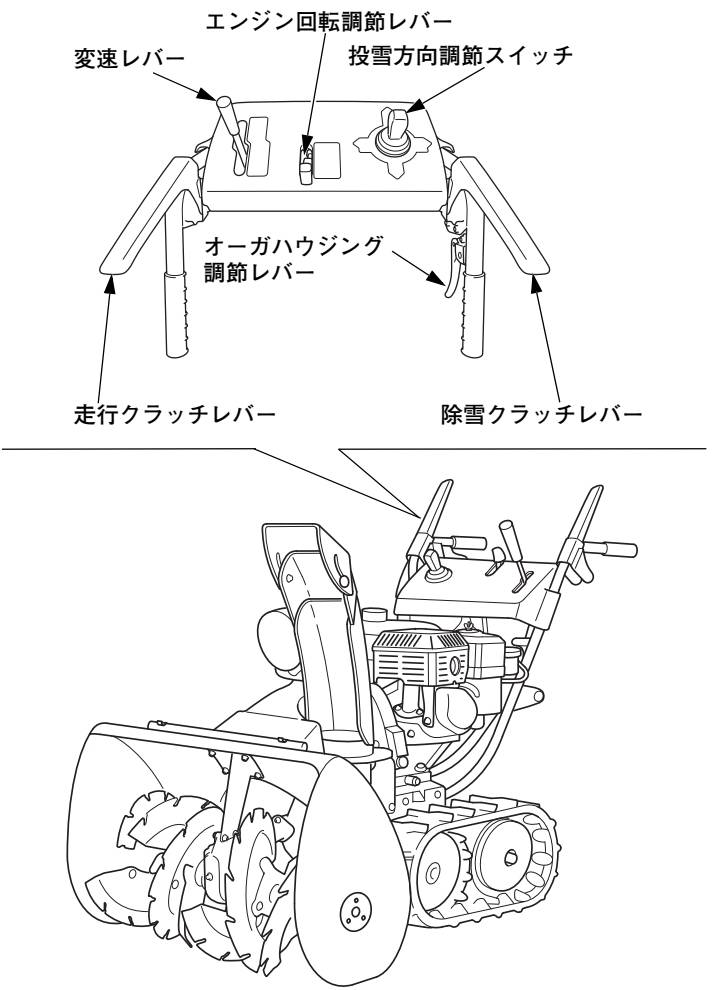
【J2 タイプ】



各部の作動点検

年 1 回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

- エンジンの始動、停止
- レバー類の作動
- スイッチ類の作動
- その他の可動部分の作動



ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

規定容量 …… メインヒューズ：20A ／サブヒューズ：5A

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

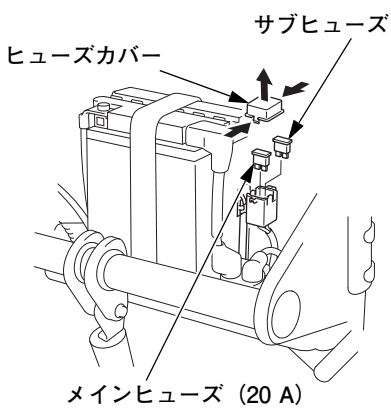
《交換のしかた》

1. バッテリーカバーを取外してください。（27 頁参照）
2. ヒューズカバーを外し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。

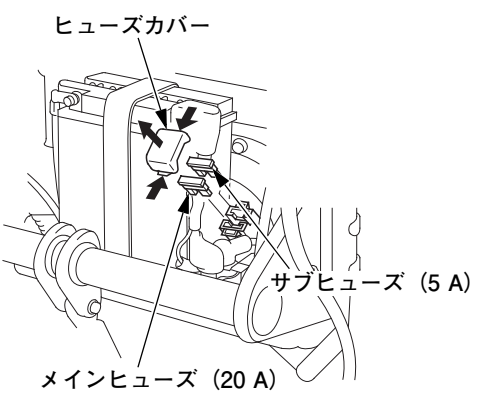
・指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。

・5 A、20 A の予備ヒューズが工具袋に同梱されています

【JX1 タイプ】



【J2 タイプ】



各部が作動しないときは

・ヒューズに異常がないことを確認してください。

・ヒューズに異常がない場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。

運　搬　す　る　と　き　は

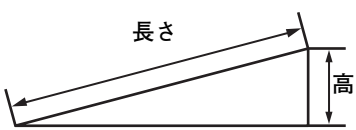
アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：120 kg（JX1 タイプ）
   105 kg（J2 タイプ）
3. 下の表を目安に傾斜角度が15°以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あることを確認してください。“空”に近いとエンストしてしまうことがあります。

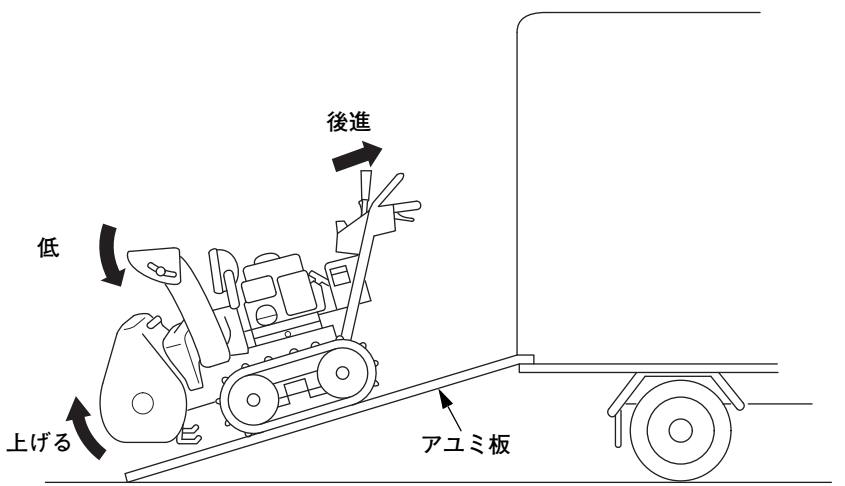
《手順》

1. アユミ板の幅をクローラーの幅に合わせます。
2. オーガハウジング調節レバーを操作して、オーガハウジングを最上位置まで上げます。
3. エンジンを始動し、投雪方向調節スイッチでシューターガイドを一番下まで下げます。

4. 変速レバーを後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 除雪部がほろなどに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠注意

アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを “N” (中立) にして再始動してください (32 頁参照)。HST 切換えレバーは手押しの位置にしないでください。本機が空走することがあります。



⚠警告

本機を運搬するときは、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

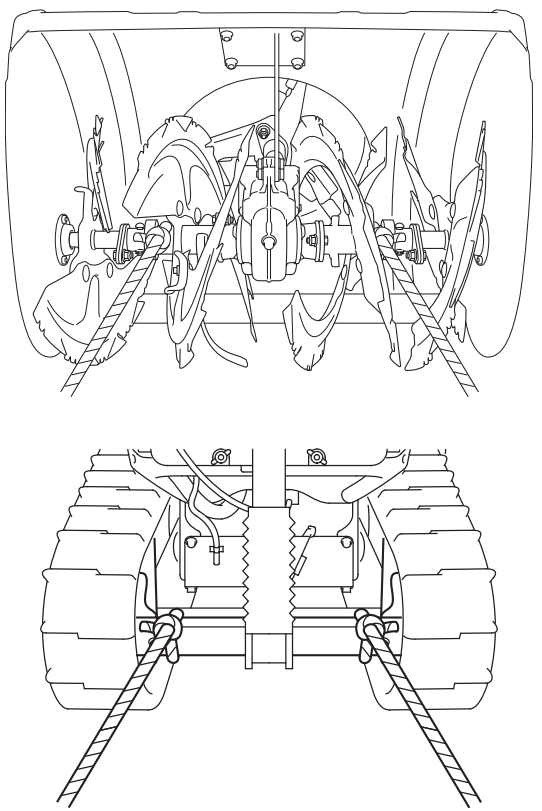
ロープによる固定方法

トラック等に積載したら、エンジンスイッチを “**停止**” の位置にしてエンジンを止め、燃料コックレバーを “**止**” の位置にしてください。その後、本機の下図の箇所をロープ等で固定してください。

取扱いのポイント

- **オーガにロープを引っ掛けないでください。**
- **本機を破損するおそれがありますので、必要以上にロープ等を強く締め付けないでください。**

〈ロープのかけかた〉



長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠警告

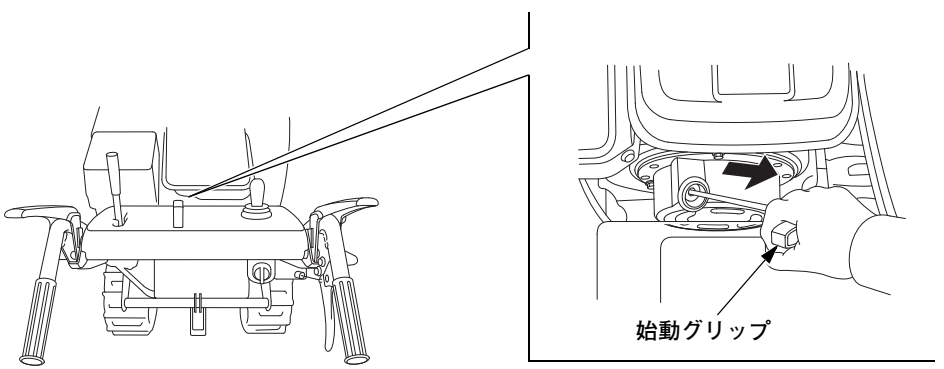
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- **作業は風通しが良く、屋外の換気の良い場所で行い、燃料付近でのタバコの喫煙や、炎など火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化した燃料に引火し、ヤケドを負うおそれがあります。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。**

取扱いのポイント

次回使用時は新鮮な燃料を補給してください。

1. 保管するときは、オーガハウジングを接地させ、エンジンスイッチキーを抜いてください。始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップを戻してください。
2. 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。



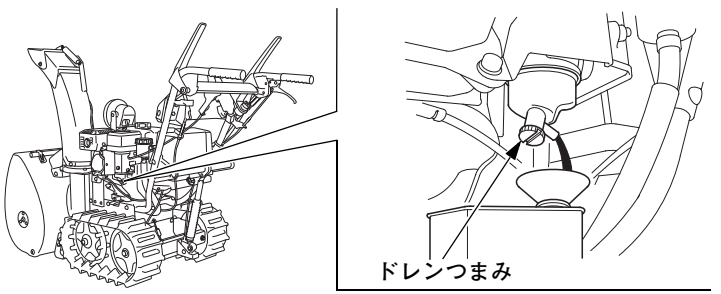
《抜きかた》

–1. 燃料コックレバーを “出” に合わせます。(13 頁参照)

–2. キャブレター（気化器）のドレンつまみを回して燃料を容器に受けます。
ドレンつまみが固くて回らない場合は、ドレンつまみの溝に合う工具などを使用して回してください。

–3. 完全に抜けたらドレンつまみを確実に締付けます。

–4. 燃料コックレバーを “止” にします。(13 頁参照)



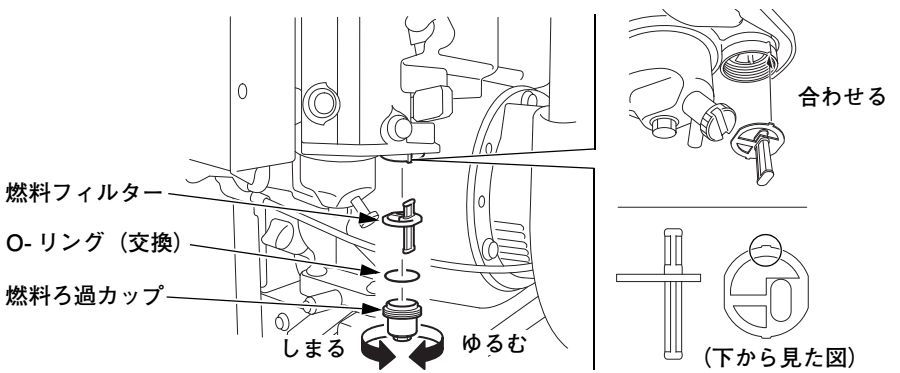
3. 燃料ろ過カップの清掃

–1.燃料ろ過カップ、O- リング、燃料フィルターを取外します。

–2.燃料ろ過カップ、燃料フィルターを洗油でよく洗い、燃料ろ過カップの底にたまったゴミや水を取除きます。

–3.清掃後、燃料ろ過カップを確実に取付けます。
・燃料ろ過カップには燃料フィルターと新しい O- リングを組付けます。

–4.燃料コックレバーを “出” にし燃料漏れのないことを確認します。



⚠警告

作業は風通しが良く、屋外の換気の良い場所で行い、燃料の付近でタバコを吸ったり炎など火気を近づけないでください。

4. バッテリーの手入れ

長期間使用しないときは、バッテリーの⊖端子を外しておいてください。
長期間バッテリーを使用しないとバッテリーは放電します。6 か月に一度および除雪時期の初めと終わりにバッテリーを外して補充電を行ってください。

バッテリーの充電は、換気の良い安全な場所で行ってください。

⚠警告

- **バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 15 分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**

《JX1 タイプのバッテリーについて》

HSS760n CROSS AUGER 仕様のバッテリーは、除雪機の前後バランスを調整する役割を兼ねています。

異なるサイズのバッテリーを搭載すると、除雪機の前後バランスが悪くなり、取扱いに影響がでるおそれがあります。

《充電のしかた》

-1. バッテリー液の点検をします。(26 頁参照)

-2. バッテリーコード⊖端子の接続を外します。

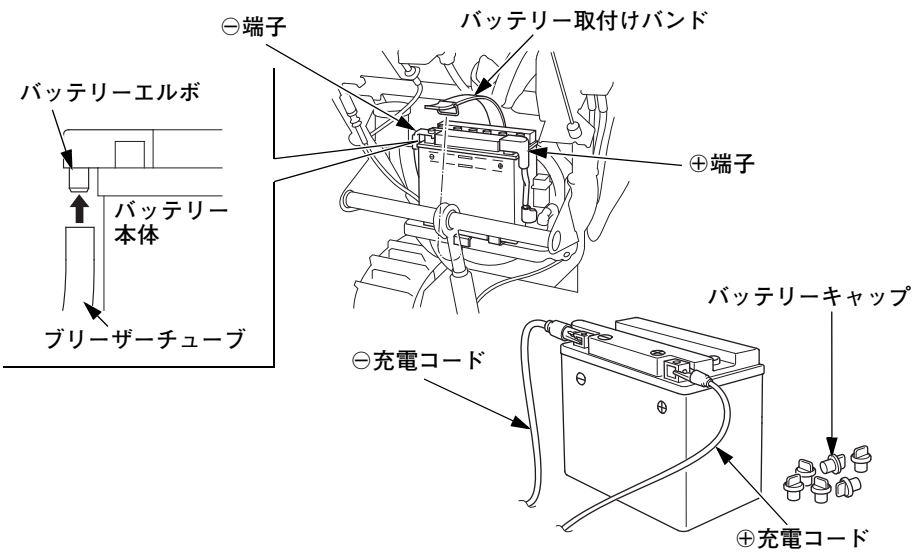
-3. バッテリーコード⊕端子の接続を外します。

-4. バッテリー取付けバンドとブリーザーチューブを外し、バッテリーを除雪機から取外します。

-5. バッテリーの充電は充電機の取扱説明書の指示に従ってください。
充電するときはバッテリーキャップを外してください。
充電器は 12V 用をご使用ください。

JX1 タイプ	1.8A で 5 ～ 10 時間充電
J2 タイプ	1.2A で 5 ～ 10 時間充電

-6. 充電終了後、バッテリーにバッテリーキャップを取付けます。次にバッテリーを除雪機に取付けます。取付けは、取外しの逆手順で行ってください。
バッテリー取付け後、ブリーザーチューブがバッテリーエルボに取付けられていることを確認してください。



取扱いのポイント

バッテリーを外した状態でエンジンをかけないでください。本機に悪影響を与えることがあります。

5. ボルト、ナットの破損、腐食、ゆるみの点検。(64 頁参照)

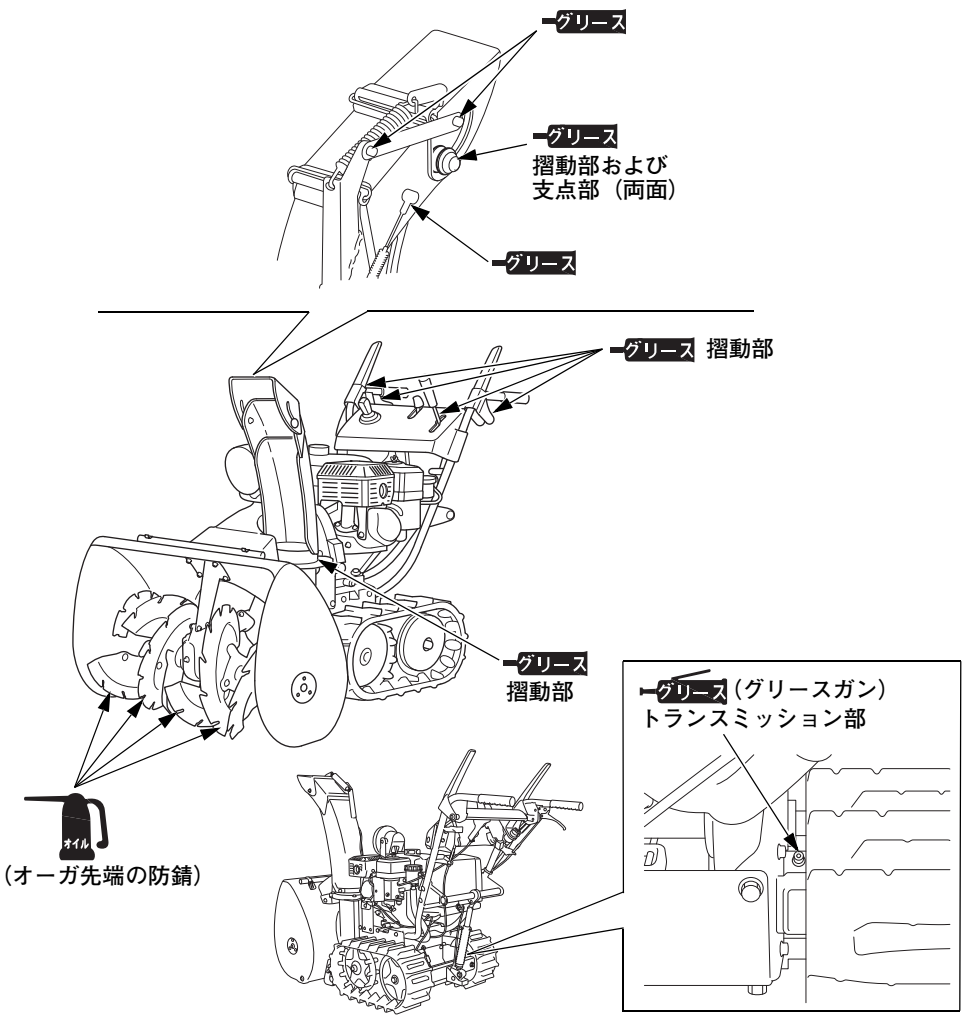
6. 保管時の給油箇所

作業を終わり次のシーズンまで保管する前に水気・汚れをふき取り、乾燥後に回転部および摺動部にオイル、グリースを注油・塗布してください。

ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店へご相談ください。



：オイル（エンジンオイル 5W-30、10W-30 相当品）　グリース：グリース（低温用）



故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか？（32 ～ 41 頁参照）
2. 燃料コックレバーは “出” の位置になっていますか？（32、37 頁参照）
3. 燃料はありますか？（21 頁参照）
4. ヒューズは切れていませんか？（67 頁参照）
5. バッテリーコードは確実に接続されていますか？（29 頁参照）
6. 点火プラグキャップは確実に取付けられていますか？（62 頁参照）
   点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（62 頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

主　　要　　諸　　元

名　　称	HSS760n1	
タ　イ　プ	JX1 (CROSS AUGER)	J2
型　　式	SBKJ	

エンジン

名　　称	GX200T2	
最大出力／回転速度 （SAE J1349 に準拠＊）	4.3 kW (5.8 PS)/3,600 rpm	
排　気　量	196 cm^3	
内径 × 行程	68.0 × 54.0 mm	
始　動　方　式	セルフスターターおよびリコイルスターター併用	
点　火　方　式	トランジスタ式マグネト点火	
エンジンオイル容量	0.6 L	
燃料タンク容量	3.1 L	
使　用　燃　料	無鉛レギュラーガソリン	
点火プラグ	BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)	
バッテリー	12V 18Ah/10HR (YB18L-A)	12V 12Ah/10HR (YB12AL-A)

フレーム

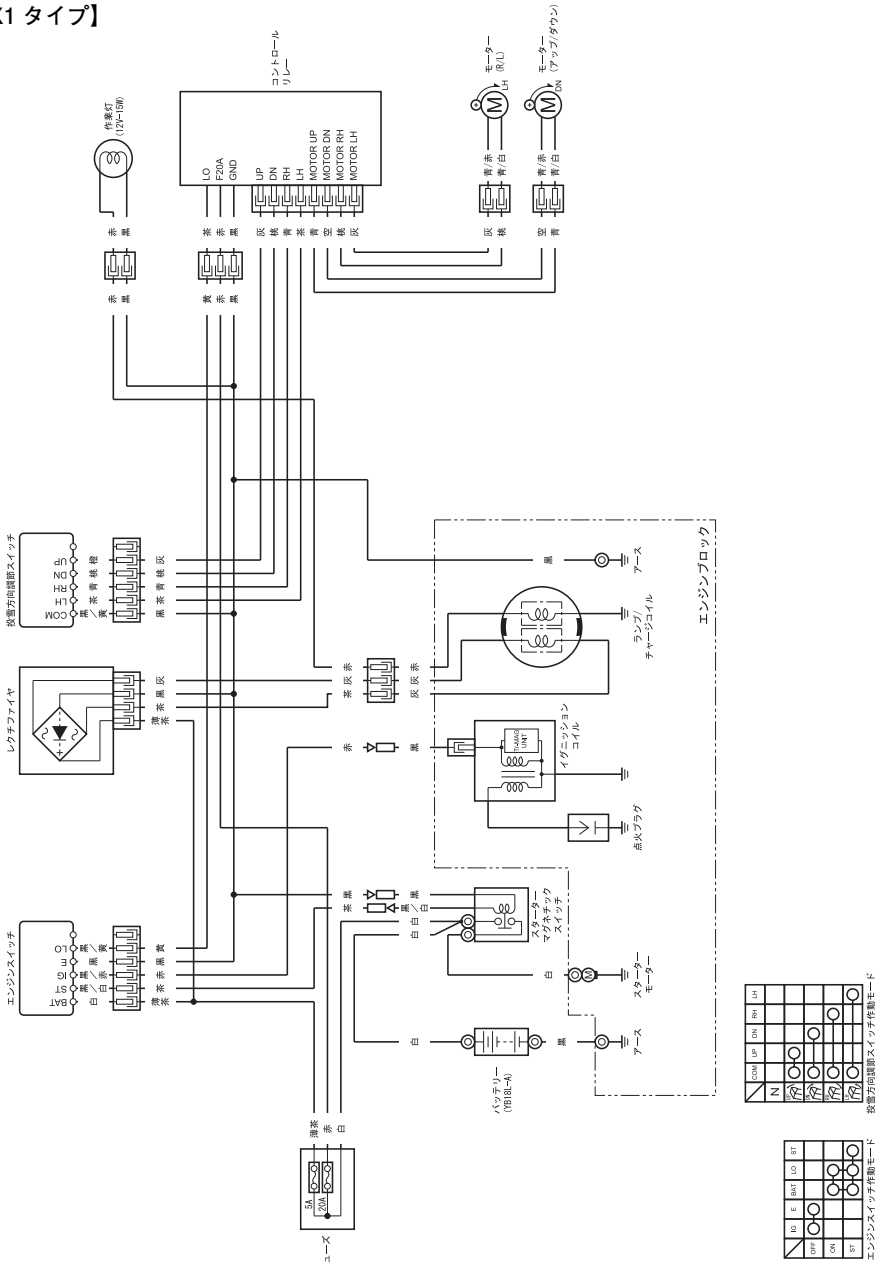
全　　長	1,410 mm	1,335 mm
全　　幅	620 mm	
全　　高	1,170 mm	1,110 mm
乾燥質量（重量）	115 kg	100 kg
除　雪　幅	605 mm	
除　雪　高	510 mm	420 mm
投雪距離	最大 15 m	最大 14 m

＊ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わることがあります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

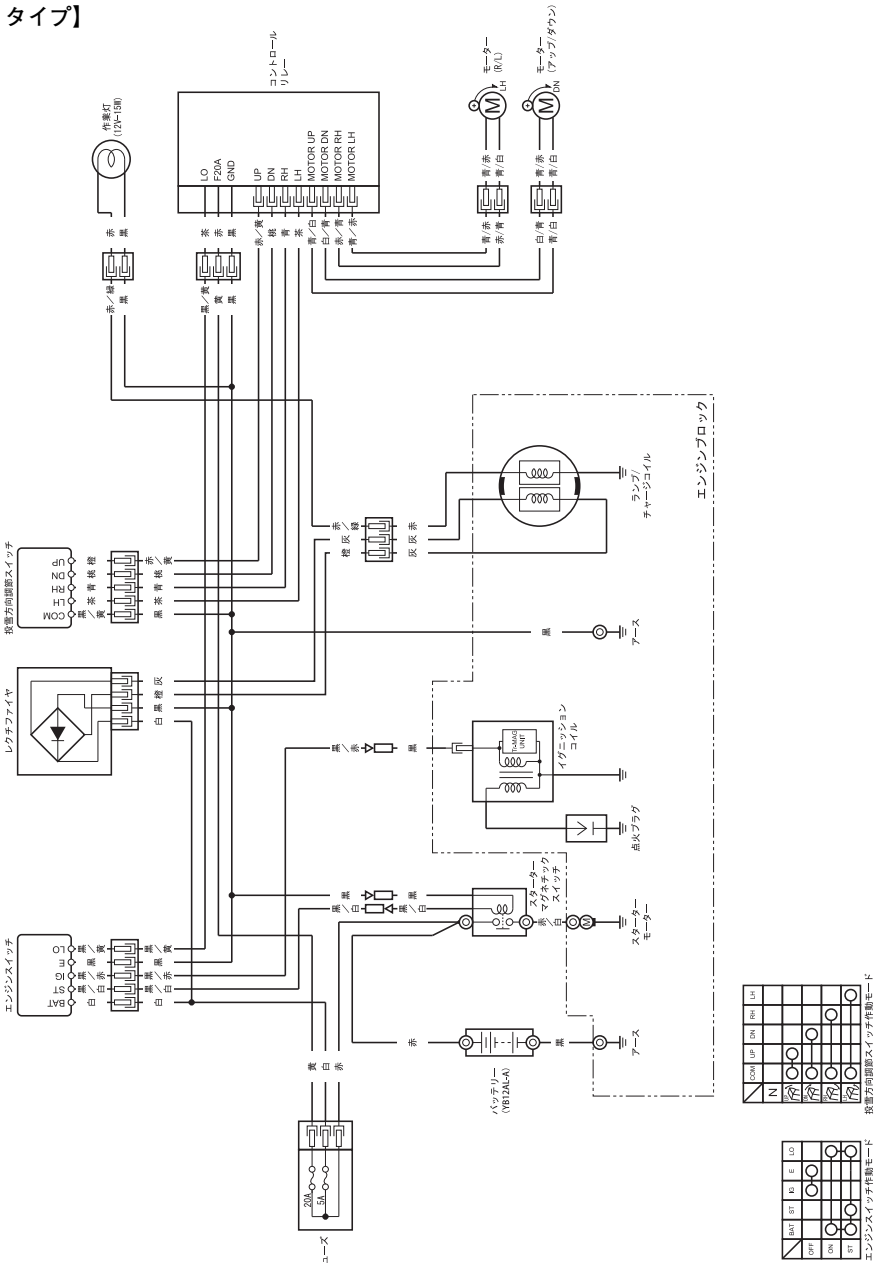
注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

配　線　図

【JX1 タイプ】


作業灯
(12V-15W)
コントロール
リレー
LO
F20A
GND
UP
DN
RH
LH
MOTOR UP
MOTOR DN
MOTOR RH
MOTOR LH
モーター
LH (R.L)
モーター
DN (アップ/ダウン)
投雪方向調節スイッチ
COM
UP
DN
RH
LH
レクチファイヤ
エンジンスイッチ
BAT
ST
E
IG
ACC
エンジンブロック
アース
ランプ/
チャージコイル
イグニッション
コイル
POWER UNIT
点火プラグ
スターター
マグネット
スイッチ
スターター
モーター
バッテリー
(12B2L-A)
アース
ヒューズ
5A
20A
投雪方向調節スイッチ作動モード
エンジンスイッチ作動モード

【J2 タイプ】


作業灯
(12V-15W)
コントロール
リレー
LO
F20A
GND
UP
DN
RH
LH
MOTOR UP
MOTOR DN
MOTOR RH
MOTOR LH
モーター
LH
(R/L)
モーター
UP
(アップ/ダウン)
エンジンブロック
ランプ/
チャージコイル
アース
イグニッション
コイル
点火プラグ
スターター
マグネティック
スイッチ
スターター
モーター
バッテリー
(YB12AL-A)
アース
ヒューズ
20A
15A
投雪方向調節スイッチ
レクチファイヤ
エンジンスイッチ
投雪方向調節スイッチ作動モード
エンジンスイッチ作動モード

メ　　モ

HONDA

HSS760n
30V04721
00X30-V04-7211

00X30V04 7211

Ⓝ Ⓕ Ⓜ 1000.2019.04
© 2019 本田技研工業株式会社
Printed in Japan